

こいたいやしきいせき
小板井屋敷遺跡 5

—— 福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告 ——

小郡市文化財調査報告書 第278集

2014

小郡市教育委員会



序 文

小都市では、北部の宅地開発や北東部、中南部における工業用地の開発が相次いで行われ、これに伴う交通網の整備、さらなる宅地開発なども進行しており、今なお発展を続けております。

小坂井地区は平成19年度に市街化区域に編入され、近年宅地・商業施設の開発がめざましく進展している地域の一つであります。それに伴って発掘調査が集中し、小都市の歴史を探るための様々な資料が浮き上がっています。

ここに報告する「小坂井屋敷遺跡5」は、小都市教育委員会が平成23・24年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果です。弥生時代から近世にわたる多くの遺構・遺物が確認されました。残念ながら、開発のため遺跡は消失することとなりましたが、今回の調査成果が、歴史資料として活用されることが、さらなる文化財保護への理解の向上に役立つことを願っております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたっては地権者の吉田健次氏、三栄ホーム株式会社、調査にご理解とご協力いただいた小坂井区の皆様、現地で発掘調査にあたっての皆様、発掘調査を進めていくうえでお世話になった方々に深く感謝を申し上げます。今後とも小都市の文化財保護行政に対するご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

平成26年3月31日

小都市教育委員会
教育長 清武 輝

凡 例

1. 本書は、小都市小坂井に所在する「周知の埋蔵文化財包蔵地 小坂井屋敷遺跡」において、共同住宅及び宅地開発に伴い、小都市教育委員会が受託契約によって発掘調査を行った小坂井屋敷遺跡5の調査報告書である。
2. 小坂井屋敷遺跡5は小都市小坂井字屋敷に所在する。
3. 本調査は姫野久恵（A・C区）、西江幸子（B区）、坂井貴志（D区）が担当した。
4. 本書に掲載した遺構の実測は、調査担当者及び調査参加者が行い、製図は姫野・宮崎美穂子が行った。
5. 遺構の個別写真の撮影は調査担当者が行い、全景写真は、有限会社空中写真企画に委託した。遺物の写真撮影は有限会社文化財写真工房に委託した。
6. 本書に掲載している遺物の洗浄・復元は、衛藤千嘉子・佐々木智子・永倉さゆみ・平嶋直美・南條由美の協力を得た。遺物実測・製図は今村杏奈（A・B・D区）・久住愛子（石器・土製品・金属製品）・白木千里（C区、B区の溝・小児棺）が行った。
7. 本書で使用する遺構に略語として冠した記号は以下を用いている。
ST：甕棺墓 SF：祭祀土坑 SC：住居跡 SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SV：周溝状遺構 SD：溝
P：ピット
8. 図版中の遺物に付されている番号は、本文中の挿図番号に対応する。
9. 本書で使用した座標は世界測地系に拠っており、遺構図中の方位は座標北を示す。
10. 本書に掲載した遺構実測図・遺物実測図・写真は、小都市埋蔵文化財調査センターにて保管している。
11. 本書の執筆・編集は姫野が行った。

本文目次

第1章 はじめに	1	第5章 B区の遺構と遺物	15
1 調査に至る経緯	1	1 糞棺墓	1
2 調査の経過	2	2 祭祀土坑	2
3 調査体制	3	3 掘立柱建物跡	3
第2章 位置と環境	2	4 土坑	4
第3章 調査内容	3	5 溝	5
1 調査概要	3	6 ビット・その他	6
2 報告に際して	3	第6章 C区の遺構と遺物	33
(1) 住居跡	3	1 住居	1
(2) 祭祀土坑	3	2 掘立柱建物	2
(3) 土坑	3	3 土坑	3
(4) 井戸	3	4 周溝状遺構	4
(5) 溝	3	5 溝・溝状遺構	5
第4章 A区の遺構と遺物	4	6 ビット・その他	6
1 住居跡	4	第7章 D区の遺構と遺物	57
2 掘立柱建物跡	4	1 井戸	1
3 土坑	4	2 土坑	2
4 溝	4	3 溝・溝状遺構	3
5 ビット・その他	4	4 ビット・その他	4
		第8章 調査の成果	66
		1 まとめ	1

挿図目次

第1図 周辺地形分布図 (1/25,000)	2	B区5・6・8・9号土坑遺構実測図 (1/40)	27
第2図 調査位置図 (1/5,000)	3	B区11～13号土坑遺構実測図 (1/40)	28
第3図 A区1号住居跡遺構実測図 (1/60)	6	第29図 B区2～6・9・12号土坑出土遺物実測図 (1/4)	29
第4図 A区2号住居跡遺構実測図 (1/60)	7	1 住居	29
第5図 A区1・2号住居跡出土遺物実測図 (1/4)	7	2 掘立柱建物	31
第6図 A区3・5号住居跡遺構実測図 (1/60)	8	3 土坑	32
第7図 A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (69は1/60、7は1/40)	9	4 周溝状遺構	32
第8図 A区11～13号住居跡 (1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図 (1/60)	10	5 溝・溝状遺構	32
第9図 A区1～3号土坑遺構実測図 (1/40)	11	6 ビット・その他	32
第10図 A区1～3号溝遺構実測図 (1/40)	12	第33図 C区2～5号住居跡遺構実測図 (24は1/60、35は1/40)	36
第11図 A区5～7・9・12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1・2号溝出土遺物実測図 (1/4)	13	1 住居	36
第12図 A区出土土製品実測図 (1/3[1,3]、他1/2)	13	2 掘立柱建物	37
第13図 A区出土土製品・金属製品実測図 (1/2)	14	3 土坑	37
第14図 B区1号糞棺墓、1号祭祀土坑遺構実測図 (STD1は1/20、SF01は1/30)	16	4 溝	37
第15図 B区1号糞棺実測図 (1/6)	16	5 溝・溝状遺構	37
第16図 B区1号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/6)	17	6 ビット・その他	37
第17図 B区1号祭祀土坑出土遺物実測図② (1/4)	18	第34図 C区6～8号住居跡遺構実測図 (6は1/80、78は1/60)	38
第18図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/30)	19	1 住居	38
第19図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図① (1/4)	20	2 掘立柱建物	38
第20図 B区2号祭祀土坑出土遺物実測図② (1/4)	21	3 土坑	39
第21図 B区1号祭祀土坑出土土製品実測図 (2/3[1,2]、1/2[3])	21	4 周溝状遺構	39
第22図 B区3～5号祭祀土坑遺構実測図 (1/30)	22	5 溝・溝状遺構	40
第23図 B区3・4号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/4)	23	6 ビット・その他	40
第24図 B区5号祭祀土坑出土遺物実測図 (1/6[1]、他1/4)	24	第38図 C区2～6・8・11・20号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[9,11])	41
第25図 B区3・4号祭祀土坑出土土製品実測図 (1/2[1]、他2/3)	24	1 住居	41
第26図 B区2～4号土坑遺構実測図 (1/40)	26	2 掘立柱建物	42
		3 土坑	42
		4 周溝状遺構	43
		5 溝・溝状遺構	44
		6 ビット・その他	45
		第42図 C区住居跡出土土製品、土製品実測図 (1/2)	45
		第43図 C区1～4号土坑遺構実測図 (1/40)	48
		1 住居	48
		2 掘立柱建物	49
		3 土坑	49
		4 周溝状遺構	50
		5 溝・溝状遺構	50
		6 ビット・その他	50
		第46図 C区16・17・19～21号土坑遺構実測図 (1/40)	51
		1 住居	51
		2 掘立柱建物	52
		3 土坑	52
		4 周溝状遺構	55
		5 溝・溝状遺構	55
		6 ビット・その他	56
		第50図 C区ビット出土土製品、土製品実測図 (1/2)	56

第51図	D区1～5号井戸遺構実測図(1/60)	59	第56図	D区1～3号溝遺構実測図(12は1/60、3は1/40)	64
第52図	D区1～10号土坑遺構実測図(7.9.10は1/60、他は1/80)	60	第57図	D区1～6号溝出土遺物実測図(1/4)	64
第53図	D区1～5号井戸、2号土坑出土遺物実測図(1/4)	61	第58図	D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図(1/2、1/3[1])	65
第54図	D区1・3・4・6～8号土坑出土遺物実測図(1/4)	62	第59図	D区ピット出土遺物実測図(1/4)	65
第55図	D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品実測図(1/2、1/4[1,2])	62			

写真・図版

図版1	①小板井屋敷遺跡5全景(真上から)
	②A区全景(真上から)
	③B区全景(真上から)
	④C区全景(真上から)
	⑤D区全景(真上から)
	⑥調査区遠景(北から)〔1次調査地・遺跡南端をのぞむ〕
	⑦調査区遠景(東から)〔遺跡南西端及び周辺遺跡をのぞむ〕
図版2	①A区SC01貼床面(東から)
	②A区SC01完掘(東から)
	③A区SC02貼床面(東から)
	④A区SC05完掘(北から)
	⑤A区SC07貼床面(東から)
	⑥B区ST01出土状況(西から)
	⑦B区SF01出土状況(西から)
	⑧B区SF02出土状況(西から)
	⑨B区SF05出土状況(北から)
	⑩B区SD01b区ベルト土層(東から)
	⑪B区SD02西壁土層(東から)
	⑫A区SC02完掘(南西から)
	⑬A区SC06完掘(西から)
	⑭B区SF03遺物出土状況(南から)
	⑮B区SF04・SK08完掘(東から)

図版3	①C区SC03完掘(南から)
	②C区SC05貼床面(北から)
	③C区SC05貼床面(北から)
	④C区SC08完掘(南から)
	⑤C区SC12土器出土状況(東から)
	⑥C区SC12完掘(東から)
	⑦C区SC17完掘(南東から)
	⑧C区SC20貼床面(南から)
	⑨C区SK04遺物出土状況(東から)
	⑩C区SK11完掘(北から)
	⑪C区SK16完掘(北から)
	⑫C区SK17完掘(南から)
	⑬C区SD01土層(東から)
	⑭D区SE01完掘(南から)
	⑮D区SE02完掘(南から)
	⑯D区SK02完掘(北東から)
	⑰D区SD01土層(南から)
	⑱D区SD02土層(南から)
図版4	遺物写真1
図版5	遺物写真2
図版6	遺物写真3
図版7	遺物写真4
図版8	遺物写真5

表目次

小板井屋敷遺跡5出土遺物観察表	
・A区出土土器観察表	67
・B区出土土器観察表	67
・C区出土土器観察表	69
・D区出土土器観察表	72
・出土石製品観察表	74
・出土石製品観察表	75
・出土石製品観察表	75

付図 小板井屋敷遺跡5全体図(1/200)

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

小坂井屋敷遺跡5の調査は、平成21年7月29日付けで地権者の吉田健次氏より、小都市教育委員会に対して、小都市小坂井字屋敷64-1、65-4、86-2、86-3、86-4において、共同住宅の建設及び市道の新設工事に伴い、予定地内の埋蔵文化財の有無について照会・事前審査願いが届出されたことを端緒とする（審査番号9028）。それを受け、平成21年9月8日に試掘調査を実施し申請地内に遺跡が確認された。この成果をもとに地権者と協議を行った。その結果、建物基礎部分が遺構面まで達する上、建物の構造上、設計変更もできないことから、やむを得ず遺跡が破壊される部分について発掘調査を行い、記録保存を測ることとなった。

2. 調査の経過

平成24年1月6日に3ヶ年度（平成23・24年度調査、25年度整理作業及び調査報告書作成）にわたる埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、これを受け同年1月12日～5月18日まで現地調査を実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

1/10座標及びレベル移動 1/12～1/18 B→A→C区の順で表土剥ぎ 1/18発掘作業員による人力での掘削及び検出作業開始（C区より）1/26 C区SD02完掘 2/16 C区SD01完掘 2/24 C区SV01完掘 3/1～3/6雨天により作業が中断 3/7西江調査に合流（B区担当）及び発掘作業員の増員 3/9 A区作業開始、労災事故が発生、危機管理を徹底し安全に努める 3/27 B区作業終了、作業終了に伴い西江離脱 4/6 A、B、C区ハルーンによる全体撮影 4/9坂井合流（D区担当）、D区表土剥ぎ開始、プレハブ・トイレの移動 4/10 B区、D区の表土剥ぎと併せて埋戻しを開始 4/11 D区表土剥ぎ一部を残して終了 4/18 D区の残りの表土剥ぎ開始、C区西より埋戻し開始 4/20埋戻し終了 5/8 A区全体図測量 5/10ハルーンによるA区、D区の全体写真撮影 5/11A区調査終了 5/15 D区調査終了 5/16～5/18埋戻し、小坂井屋敷遺跡5の引き渡し、調査のすべてを完了する

3. 調査体制

小都市教育委員会	教育長	清武 輝
	教育部長	吉浦 大志博（～平成25年3月31日） 佐藤 秀行（平成25年4月1日～）
	課長	片岡 宏二
	係長	柏原 孝俊
	技師	西江 幸子（B区調査・整理担当）
	嘱託	坂井 貴志（D区調査担当） 姫野 久恵（調査、整理、編集担当）

発掘従事者

阿南翔悟、荒巻国利、石井京子、伊東みさ子、今村祐介、小川高征、草場誠子、黒瀬 明、小屋野永利、佐藤照子、城島和正、朱巻聡一郎、田中賢二、田中正登、土井久江、西島勝徳、松永康弘、宮崎隆明、森下弥寿治 以上（敬称略）

第2章 位置と環境

小坂井屋敷遺跡5は小都市の中央を南北に貫流する宝満川の西岸に位置し、市北部の丘陵地から、なだらかに続く低台地の縁辺部に所在する。また、当遺跡西側には埋没谷を挟んで小坂井連輪遺跡(2)が存在する。現況面での標高は12.60～12.75 m前後である。遺跡の北から東側には段丘崖が残っており、築地川を望む立地である。（第1・2図）。

小坂井屋敷遺跡(1)は、平成9年に1次調査を実施。それ以降計4回の調査が実施されている。1次調査（市報告139集）は本調査地南西に位置し、弥生時代中期後半～後期後半～古墳時代初頭の集落跡が、2次調査（市報告253集）では、飛鳥・奈良時代の集落跡や、鎌倉～室町時代、江戸時代の溝が検出されている。3次調査（市報告264集）は、2次調査の南側に位置し中近世の大溝

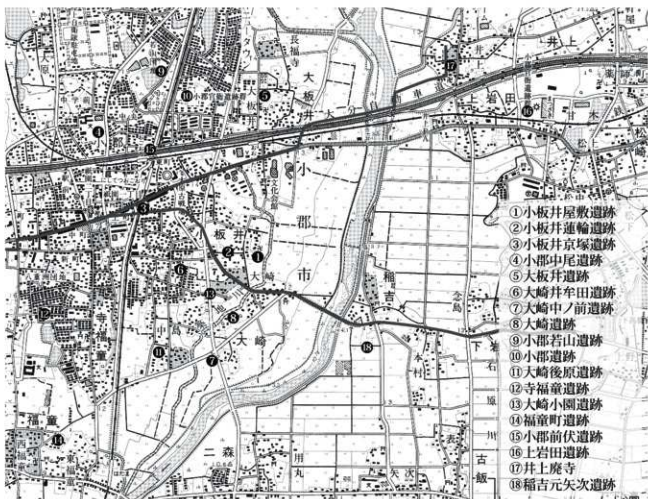
を検出した。4次調査(市報告269集)は遺跡北端に位置し、古墳時代前期、後期の土坑や住居が確認されている。また、5次調査後、平成25年4～8月に6～8次調査が相次いで隣接地において行われており、狭域な調査区ではあるが5次調査と同時期の遺構が確認されている。

以下、当遺跡周辺に分布する遺跡を中心に歴史的環境を時期毎に概観していく。

旧石器時代・縄文時代の遺跡は希薄ではあるが、小坂井京塚遺跡(③)において剥片尖頭器が確認されている。また、小部中尾遺跡(④)、大板井遺跡(⑤)、大崎井牟田遺跡(⑥)などで押型文土器が確認され、特に大崎井牟田遺跡においては石組炉に伴う出土として注目される。

弥生時代になると人々の活動が活発化する。特に小部・大板井地域は中核集落として前期～後期に至るまで展開する。まず前期中葉から、大板井遺跡(⑤)において貯蔵穴が多数認められ住居跡も確認されている。中期前半になると同遺跡の集落の規模が飛躍的に増大し、喪葬墓などの墓域も形成される。そのほかの中期～後期の遺跡として大崎中ノ前遺跡(⑦)、大崎遺跡(⑧)、小部若山遺跡(⑨)、小部遺跡(⑩)、大崎後原遺跡1・2(⑪)、小坂井屋敷(①)、寺福童遺跡(⑫)、大崎小園遺跡(⑬)など多くの集落が確認されている。そのなかでも大崎中ノ前遺跡2(中期前半～後期初頭の集落跡)では、土坑より赤・黒漆塗り木製品や鍍など木製品が多数出土しており、注目される遺跡であろう。小坂井屋敷遺跡1では、中期中頃の土坑が確認されている。寺福童遺跡5では弥生時代から古墳時代まで続く墓域が確認された。

古墳時代初頭から前期の遺跡として、大崎小園遺跡、小坂井屋敷遺跡、大崎中ノ前遺跡、福童町遺跡(⑭)などが挙げられる。大崎小園遺跡1・3では庄内式系・布留式系土器といった畿内系の土器を伴った住居跡が検出され、他の地域との交流が想定される。だが、一方では福童町遺跡1のように在地系の土器しか出土しない集落もある。当該期の周辺の墓域として、寺福童遺跡1があり、方形周溝墓が確認されている。中期では、小部市では小規模散在型の集落形態を成し、古墳時代後期になると集落の数が大幅に増加する。宝満川下流西岸の集落は、沖積地を望む丘陵縁辺部の開析された台地を中心として6世紀以降継続的に営まれ、東岸部と同様に7世紀初頭前後を画期として中位段丘から



第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

低位段丘上に集落域を拡大、新たな集落を展開している。

古代では、当遺跡より約1km北に御原郡衙に比定される小部官衙遺跡(⑩)がある。コ字型に配された郡庁跡や正倉とみられる倉庫群など機能的に整然と配置し、郡衙の構造を知る上で欠く事のできない重要な遺跡といえる。関連して、小部前伏遺跡(⑪)では郡庁に至る道路状遺構が、大板井遺跡では4×5間の総柱建物跡が3棟検出されている。上岩田遺跡(⑫)では、大型の掘立柱建物跡が多数とその中心的な建物が基壇遺構上に確認され、その周辺からは山田寺系種先瓦や鬼板瓦が出土することから近接して位置する7世紀末から8世紀初頭に築造された井上庵寺(⑬)に先行する寺院と見られている。

中世では、宝満川の自然堤防上に立地し、方形溝で区画された集落がある稲吉元矢次遺跡(⑭)が知られている。龍泉窯や同安窯の青磁類が多数出土している。また、当遺跡に近接する小板井屋敷遺跡1からも龍泉窯系青磁が井戸から出土し、当遺跡を含めた小板井地区に中世期の集落が広範囲に広がっていることが予想される。

近世では、久留米から山家までの横隈街道(旧筑前街道)や、肥前田代方面から小部・大板井・井上を経出して英彦山への参詣道として利用された彦山道など、大道(街道)や横道(小道)が小板井地区周辺においても整備されている。当該地域周辺においても、近世代の遺物や遺構が確認されていることから当時の賑わいが想像できよう。

このように当遺跡周辺は文化財の宝庫であり、当地域もその一つと数えられるものである。

第3章 調査の内容

1. 調査の概要

遺跡は現地表高12.60～12.75m前後、遺構検出面で12.00～11.90m前後を測る。東に向かい低くなっている。

基本層所は上層が耕作土層(約20cm前後の堆積)、暗灰黄褐色・暗灰茶褐色層で弥生～中近世まで多くの遺物を含む土層、その下で暗茶褐色・黄褐色の地山土、遺構面となる。遺構検出面までの深さは60～90cm前後を測る。

調査区はA区、B区、C区を先に調査し、倉庫撤去後、B・C区の埋戻しと併せて、D区の表土剥ぎを行った。

検出した遺構については各章で報告する。

2. 報告に際して

(1) 住居跡(SC)

検出して住居跡とした遺構は総数29軒を数える。A区とC区で検出した。住居形態は各種あり、時期も弥生・時代中期～後期に及ぶ。以下では、表形式で説明を行うが、留意点は次のとおりである。

- ①『貼床の有無』は、貼床と考えられる硬化する面である。
- ②『長軸・短軸』の計測値は個々の最大値で、単位はm。「(数値)」は現存状況での数値である。
- ③『深さ』は検出面から貼床面までの深さである。「(数値)」は、検出面から、完掘面の深さである。また深さの左側の数値は、「検出面から貼床面」までの深さで、右側は「貼床面から完掘面」までの深さである。単位はm。
- ④『主柱穴』は主柱穴と考えられる柱穴の数。
- ⑤『火床施設』は住居内の火床施設でカマド及び炉跡等である。
- ⑥『長軸方位』は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ⑦『先』はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、『後』は同じく後出する遺構である。
- ⑧『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中、床下層、カマド及び炉跡等に分かれている。『その他の遺物』は、石器、金属器、



第2図 調査地位図(1/5000)

土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れていないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.75）を参照願いたい。

- ⑨ 住居跡の遺構実測は各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(2) 祭祀土坑 (SF)

検出し、祭祀土坑とした遺構は5基を数える。またB区のみで確認された。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である
- ② 『長軸方位』は長軸が北から東西方向に何度傾いているかを示している。
- ③ 『先』はその遺構に切り合い関係上先行する遺構で、『後』は同じく後出する遺構である。
- ④ 『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中（上層・下層）等に分けている。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.69）を参照願いたい。
- ⑤ 祭祀土坑の遺構実測図は、第5章の2に掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(3) 土坑 (SK)

検出し、土坑とした遺構は総数41軒を数え、時期も多期にわたる。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点①～③は祭祀土坑①～③と同じとする。

- ④ 『出土遺物』のうち『土器』は、遺構における出土層位、位置を主に記載した。出土層位、位置は、覆土中（上層・下層）等に分けている。『その他の遺物』は石製品、金属器、土製品等の出土点数と出土層位、位置を記載した。特に触れないものは覆土中の出土である。これら『出土遺物』についての法量等の詳細は出土遺物観察表（p.67～p.75）を参照願いたい。
- ⑤ 土坑の遺構実測図は、各区ごとに掲載。出土遺物実測図についても同じである。

(4) 井戸 (SE)

検出し、井戸とした遺構は5基を数え、D区のみで確認された。上記遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である。『長軸』・『短軸』ともに同じ数値の場合は、南北軸＝『長軸』、東西軸＝『短軸』とした。
- ② 井戸の遺構実測図は、p.59に掲載。出土遺物実測図についてはp.61、p.62に掲載している。
- ③ 『長軸方位』、『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、「(1)住居跡の⑥～⑧」と同じである。

(5) 溝 (SD)

検出し、溝とした遺構は総数28条を数える。上記の遺構同様、表形式で説明を行う。留意点は以下のとおりである。

- ① 『長軸』・『短軸』・『深さ』の計測値は個々の最大値で、単位はm。また、「(数値)」は残存状況での数値である。
- ② 溝の遺構実測図は、A区p.12、B区p.31、C区p.55、D区p.64に掲載。出土遺物実測図についてはp.13～14、p.32、p.56、p.64～65に掲載している。
- ③ 『主な遺構との先後関係』、『出土遺物』については、「(1)住居の⑥～⑧」と同じである。

第4章 A区の遺構と遺物

A区で検出した遺構は住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、溝3条、その他ビット約30基である。以下、住居跡・土坑・溝は表形式で、掘立柱建物跡、ビット群については文章で報告する。

A区		1号住居跡					第3図/図版2		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		長方形	あり	3.46	2.56	0.16	0.04	1?	—	90°	先 SD01
出土 遺物	土器[第5図/図版4]								その他の遺物[第1図/図版1]		
	外面下平へ79°を施した襷や79°を施した鉢などが出土している。出土遺物なし										
概要	貼床より多くの遺物が出土。弥生後期末から古墳初期と比定される。弥生後期終末から古墳初期に比定される。										
	住居北西部分はSD01に切られ南東側部分は調査区外へと広がる。硬化する貼床と考えられる面を検出した。その面において、主柱穴と考えられる柱穴を住居のほぼ中央に1基礎確認できた。下層遺構は、西側から北東側にかけて掘り込まれ、また北東側は土坑状に掘り込まれている。										

A区		2号住居跡					第4図/図版2		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	(3.1)	(2.34)	0.18	0.10	1?	—	N-51°-W	先 SC01
出土 遺物	土器[第5図/図版4]								その他の遺物[第13図/図版8]		
	貼床より多くの遺物が出土。外面格子目79°を施した軸式系土器の鉢が出土していることは特筆すべき点であろう。弥生後期終末から古墳初期に比定される。								不明土製品と、鉄鏝が出土。		
概要	住居の北側がSC01に切られ南側は調査区外へと広がる。貼床と思われる硬化する面を検出し、そのほぼ直上で土器が多く出土している。主柱穴は貼床面では確認できず、貼床層後に主柱穴と考えられる柱穴を検出した。										

A区		3号住居跡					第6図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後
		長方形?	—	(5.40)	(4.64)	(0.10)	—	—	N-75.5°-W	先 SD02・03、SC12・11
出土 遺物	土器[第1図/図版-]								その他の遺物[第1図/図版-]	
	弥生土器片が少量出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降に比定される。								出土遺物なし	
概要	周辺遺構に切れ、また、上層を表土剥ぎ時に崩壊しすぎたため、住居の全容は不明である。									

A区		5号住居跡					第6図/図版2		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		長方形	あり	4.80	4.60	0.14	0.10	3	—	N-46°-E	先 SD01・02、SK02
出土 遺物	土器[第11図/図版-]								その他の遺物[第13図/図版-]		
	埴形タイプの高杯の脚部と鉢が出土している。鉢は非常に薄手で内面のみ、外面はほぼ調整。丹塗りを施す。								3は動物形の土製品の脚部である。脚が短く腹部が腫脹を呈するため鉢の可能性が高い。		
概要	住居は、SD01・02に分断される形で検出。北側・中央部分では、表土剥ぎ時に崩壊しすぎたため、上層を扁平してしまい、貼床が確認できたのは、住居の南側のみである。										

A区		6号住居跡					第7図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後
		方形	あり	(3.70)	(2.40)	—	—	—	N-48°-E	先 SC02・05
出土 遺物	土器[第11図/図版-]								その他の遺物[第12図/図版8]	
	弥生中期末～後期初期に比定される土器が出土している。								磁石が出土している。磁面はほぼ全面に及ぶ。	
概要	住居北側をSC05に切られ、南側が調査区外へ広がる住居である。貼床検出面で柱穴を2基礎出したが主柱穴の可能性は低い。また、東側壁面にテラス状の段をもつ。下層遺構は東西住居壁面に沿って溝状に掘り込まれている。									

A区		7号住居跡					第7図/図版2		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		不明	あり	(1.90)	(0.90)	0.10	0.04	—	伊か?	N-73°-E	先 SD01・02、SC05
出土 遺物	土器[第11図/図版4]								その他の遺物[第1図/図版-]		
	出土遺物は7以上は微量でいずれも細片である。7は貼床面からの出土でビット上面から検出した。								出土遺物なし		
概要	住居は大平を他遺構に切られ全容は不明である。検出できたのは住居南側のみである。また、住居壁面に沿うように焼土を確認した。時期は弥生終末期であろう。										

A区		8号住居跡					付図/図版-		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		不明	—	—	—	(0.06~0.10)	—	—	—	—	先 SD02、SK02、SC05
出土 遺物	土器[第1図/図版-]								その他の遺物[第1図/図版-]		
	出土遺物は微量。いずれも図示するに至らなかったが、外面に79°が施された襷の細片などから弥生終末期前後に比定される。								出土遺物なし		
概要	調査区北東側で検出し、大平が調査区外へと広がる住居である。西側はSC05、南側はSD02に切られ全容は不明。住居としたのは、調査区北壁とわずかに貼床と思われる硬化する面を確認できたからである。										

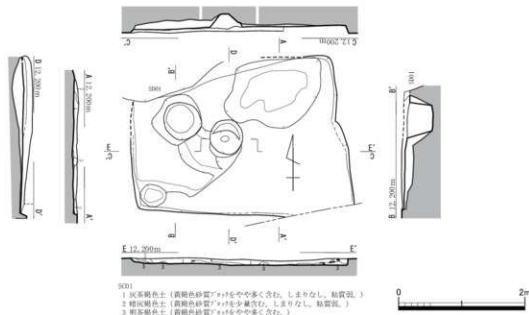
A区		9号住居跡						第7図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01, SD01	
	方形か?	あり	(3.10)	(2.26)	0.18	0.18	—	炉か? N-68°-W	後		
出土遺物	土器【第11図/図版4】						その他の遺物【第一図/図版-】				
	9は、外面丹塗りで、口縁部に穿孔が確認できる。時期は弥生中期末と比定されよう。						出土遺物なし				
概要	北側はSD01に切られ、南側は調査区外へと広がり、全容は不明である。表土剥ぎ時掘りすぎの高、一部貼床が露出している状態で検出。さらに、雨天後の精査時に住居西側7ヶが消失したため、調査区南壁面より住居西側を復元した。火床施設は確認できなかったが、東側において焼土を検出した。何らかの火床施設が存在した可能性がある。										

A区		11号住居跡						第8図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02, SC12	
	方形	—	(2.40)	(0.80)	(0.05~0.10)	—	—	N-60°-E	後	SC13	
出土遺物	土器【第一図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】				
	出土遺物なし						出土遺物なし				
概要	住居の北東隅部分のみを検出した。住居の全容は不明である。										

A区		12号住居跡						第8図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD02	
	方形か?	—	(2.64)	(0.70)	(0.08~0.10)	—	—	N-72°-E	後	SC11, SC13	
出土遺物	土器【第11図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】				
	弥生土器の口縁部片が出た。弥生中期後葉に比定されよう。						出土遺物なし				
概要	住居の北東隅コーナー部分を検出した。住居の全容は不明である。										

A区		13号住居跡						第8図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	東西軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	SD01, SD02, SC07	
	方形か?	—	(3.66)	(1.00)	(0.06~0.10)	—	—	N-75°-W	後		
出土遺物	土器【第一図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】				
	出土遺物は微量で、細片である。弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし				
概要	検出できたのは住居西南隅部分であろう。上層を表土剥ぎ時に掘りすぎ、大半が他の遺構に切られるため、全容は不明である。住居西側において住居壁面に沿うように溝状の掘り込みが確認できた。										

SD1



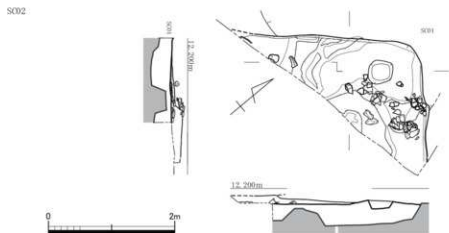
第3図 A区1号住居跡遺構実測図(1/60)

2. 掘立柱建物跡（S B）（第8図／図版一）

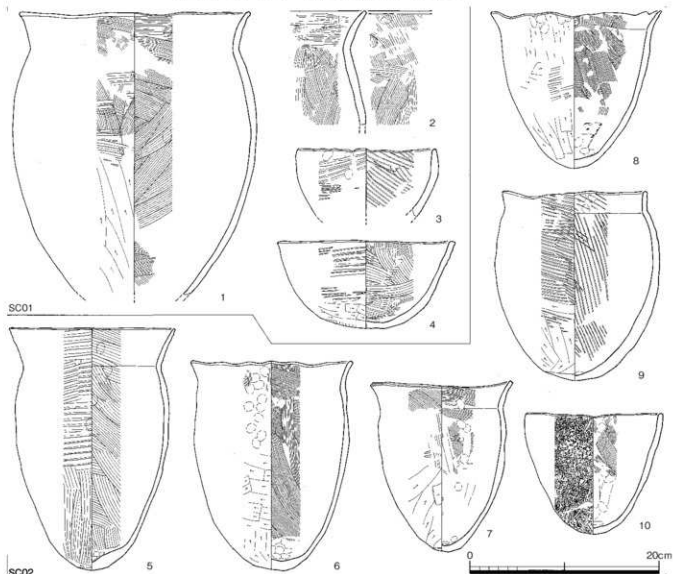
1号掘立柱建物跡はA区南西で検出した。北側を1号溝に、東側を9号住居跡に切れられ南側は調査区外へと広がり、極めて残存状況が悪い。確認できたのは建物の北側で、規模は柱間3間であろう。

出土遺物（第11図／図版一）

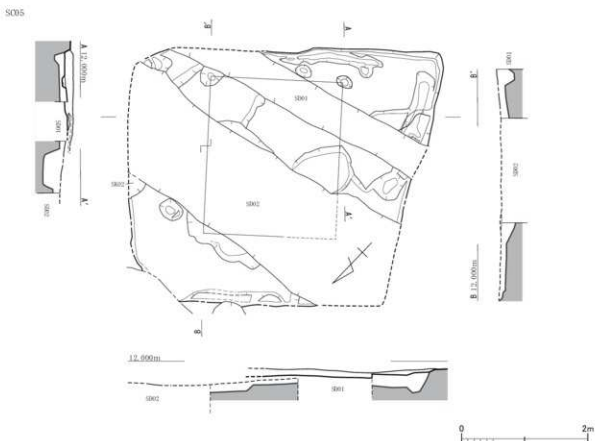
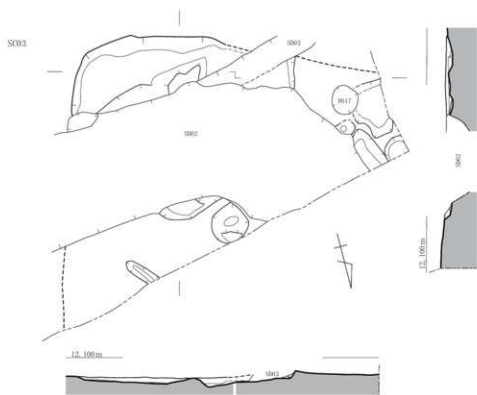
出土遺物は弥生土器の小片などがあるが、図化するに至ったのはP-1の出土遺物のみである。11は弥生土器鉢片で内外面ハケメ調整を施している。時期は弥生中期以降であろう。



第4図 A区2号 住居跡遺構実測図（1/60）

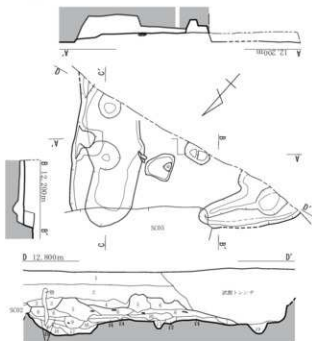


第5図 A区1・2号住居跡出土遺物実測図（1/4）



第6图 A区3·5号住居跡遺構実測図(1/60)

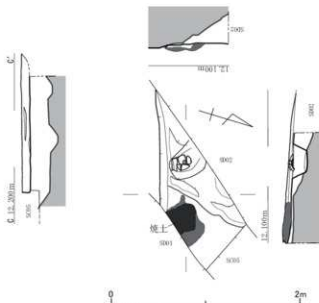
SC06 (60)



SC06

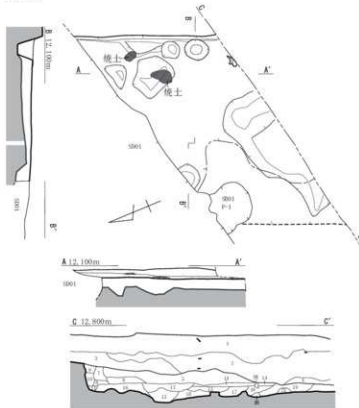
- 1 灰褐色土
- 2 明灰褐色土
- 3 明灰褐色土
- 4 明灰褐色土
- 5 明灰褐色土 (3~8cmの黄褐色地山土をやや多く含む。しまり肌、粘質弱。土層をやや厚く含む。)
- 6 明灰褐色土 (黄褐色土をやや多く含む。しまり肌、粘質あり。土層をやや多く含む。)
- 7 淡灰黄褐色土 (3~6cmの赤褐色地山土をわずかに微量含む。固くしまる。)
- 8 暗灰黄褐色土 (黄褐色地山土をさらに少量含む。やや固くしまる。粘質弱。)
- 9 暗灰黄褐色土 (黄褐色地山土をさらに非常に多く含む。)
- 10 暗灰黄褐色土 (しまり肌、粘質弱。)

SC07 (40)



- 11 淡明灰黄褐色土+黄褐色地山土質土 (非常に固くしまる。粘質弱。)
- 12 淡明灰黄褐色土+赤褐色地山土 (黄褐色砂質地山土を少量含む。ややしまる。粘質弱。)
- 13 淡明灰黄褐色土+黄褐色地山土質土 (ややしまる。粘質弱。)
- 14 黄褐色砂質地山土+褐色土+赤褐色地山土 (非常に固くしまる。)
- 15 淡明灰黄褐色土+赤褐色地山土 (黄褐色砂質地山土を少量含む。非常に固くしまる。)
- 16 淡明灰黄褐色土 (黄褐色地山土を少量。黄褐色土と微量含む。非常に固くしまる。粘質弱。)
- 17 黄褐色砂質土 (やや固くしまる。粘質弱。)
- 18 2層土 (2層土より褐色が強く。黄褐色土と微量含む。)
- 19 暗灰土 (黄褐色砂質地山土を少量含む。ややしまる。)

SC09 (60)

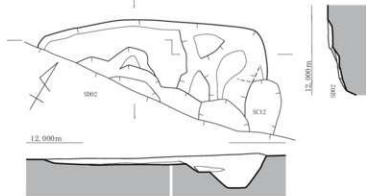


SC09

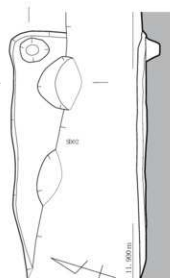
- 1 灰褐色土 (土層をやや多く含む。境目の耕作土。)
- 2 暗灰黄褐色土 (土層をやや多く含む。1層土を少量含む。)
- 3 暗灰黄褐色土 (黄褐色土をわずかに少量含む。)
- 4 暗灰黄褐色土 (2層土+1層。黄褐色土を含まない。)
- 5 暗灰黄褐色土 (3~8cmの淡褐色土質土を少量含む。しまりなし。粘質弱。)
- 6 暗灰黄褐色土 (焼土を非常に多く含む。しまりなし。粘質弱。)
- 7 暗灰黄褐色土 (2層土+1層。アサギは含まない。しまりなし。粘質弱。)
- 8 暗灰黄褐色土 (3。2層土より褐色が強い。黄褐色地山土を少量含む。ややしまる。)
- 9 暗灰黄褐色土 (1層土に近いアサギを含まない。しまりなし。粘質弱あり。)
- 10 暗灰黄褐色土 (7。4層土に近いアサギを含まない。しまりなし。明灰褐色地山土を少量含む。)
- 11 灰黄褐色土 (黄褐色砂質地山土をやや多く含む。層厚時には検出できなかった程度までの灰質あり。)
- 12 赤褐色土+淡灰褐色土+黄褐色地山土の順じり土 (固くしまる。)
- 13 淡灰褐色土+明灰褐色土+黄褐色土の順じり土 (固くしまる。)
- 14 淡灰褐色土+黄褐色地山土+明灰褐色土の順じり土 (非常に固くしまる。)
- 15 淡灰黄褐色土 (明灰褐色土+淡灰褐色土をわずかにやや多く含む固くしまる。)
- 16 黄褐色砂質地山土+黄褐色土+黄褐色土 (固くしまる。)
- 17 淡灰黄褐色土 (淡灰褐色土を少量。黄褐色砂質地山土を微量含む。固くしまる。)
- 18 淡灰黄褐色土 (黄褐色砂質地山土をやや多く含む。固くしまる。)
- 19 暗灰黄褐色土 (淡灰褐色土をやや多く含む黄褐色砂質地山土を多く含む固くしまる。)
- 20 暗灰黄褐色土 (ややしまる。)
- 21 暗灰黄褐色土 (黄褐色砂質土 (淡灰褐色土) を少量含む。固くしまる。)

第7図 A区6・9・7号住居跡遺構実測図 (6, 9は1/60, 7は1/40)

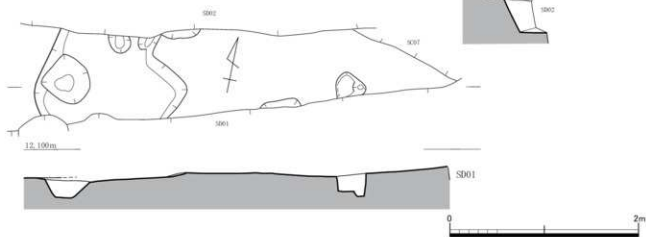
SC11 (40)



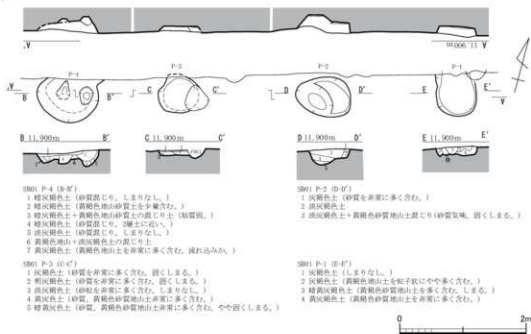
SC12 (40)



SC13 (40)



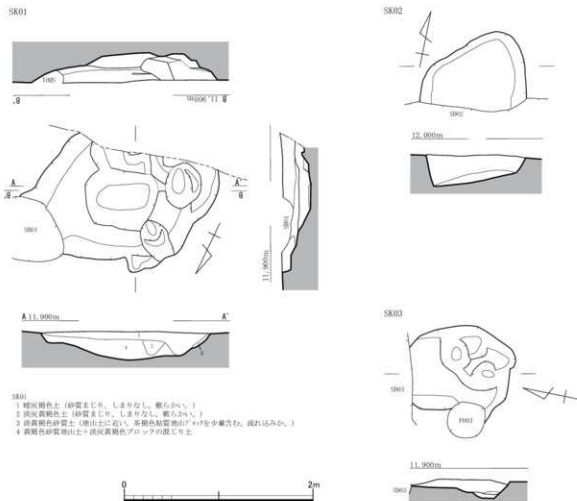
SB01 (60)



第8図 A区11~13号住居跡(1/40)、1号掘立柱建物跡遺構実測図(1/60)

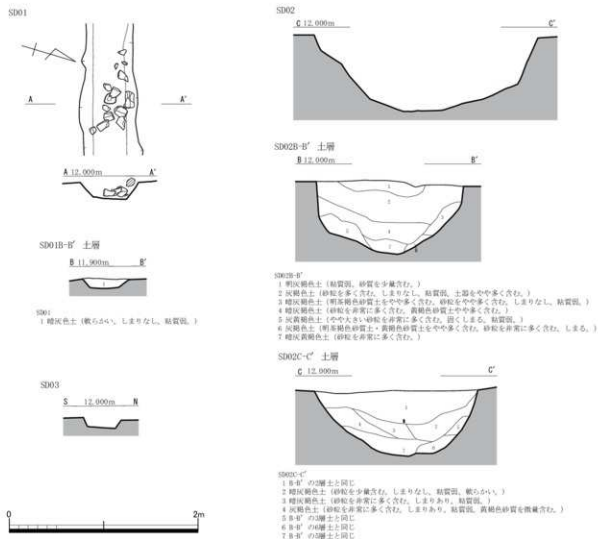
2、土坑 (SK)

A区		1号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01		
	やや方形	やや方形	1.94	(1.46)	0.20~0.32	N-64.5°-E	後			
出土遺物	土器〔第-図/図版-〕						その他の遺物〔第-図/図版-〕			
	少量の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし			
概要	南側が調査区外へ広がりが全体形は不明だが、方形であろう。土坑東側にテラスをもち、中央部分が東西70cm、南北60cmの楕円状に下がる。									
A区		2号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02、		
	楕円	楕円	1.13	(0.84)	0.34	N-78.5°-E	後	SC05・08		
出土遺物	土器〔第-図/図版-〕						その他の遺物〔第12図/図版4〕			
	遺物の出土はわずかである。外面を774調整している鉢片が出土した。弥生後期終末以降であろう。						砥石が出土している。確認できた砥面は3面である。表面に沈着物が見られる。			
概要	土坑の南半分がSD02に切られ、全容は不明である。									
A区		3号土坑					第9図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD03、P003		
	円形	円形	(1.1)	1.00	0.10~0.20	N-11°-W	後			
出土遺物	土器〔第-図/図版-〕						その他の遺物〔第-図/図版-〕			
	出土遺物はわずかである。いずれも細片で図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降であろう。						出土遺物なし			
概要	他遺構に切られ、土坑北側にテラスをもち、									

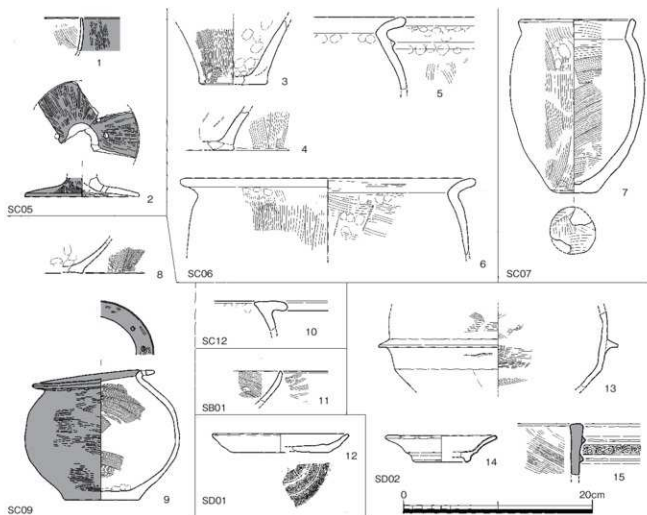


第9図 A区1～3号土坑遺構実測図 (1/40)

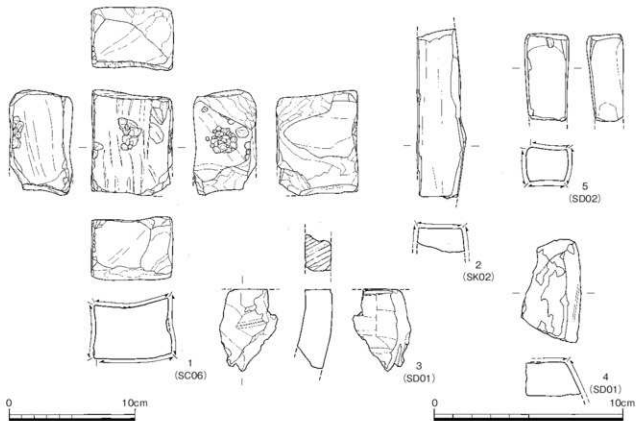
A区		1号溝			第10区/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位		先	
		(17.63)	0.50~0.90	0.20	逆台形状	N-73.5°-E		後 SC01・05・07・091・13, SB01
出土遺物	土器[第11区/図版-]				その他の遺物[第12区/図版-]			
概要	出土遺物の量は多く、時期も様々である。SD02との先後関係より17世紀以降には埋没したと考えられる。				砥石と石鏝が出土している。石鏝は口縁部の破片で口縁に工具痕が残る。砥石は被熱を受けた可能性あり。			
調査区は南側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近西向きにおいて30cm大の石がまとまった状態で出土している。何らかの石組遺構の可能性ある。検出標高は11,800m。								
A区		2号溝			第10区/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位		先	
	(15.86)	1.60~2.2	0.82	お椀形	N-77°-E		後 SC03・05・07・08・11~13, SD03	
出土遺物	土器[第11区/図版-]				その他の遺物[第12・13区/図版8]			
概要	遺物の出土量は非常に多く、多期にわたる。時期は17世紀以降であろう。				砥石、紡錘車、土鏝、金属製品など多くの遺物が出土している。			
調査区ほぼ中央を東西方向に横断し、西側は北へ3°ずれる。検出標高は11,800m~11,900m。								
A区		3号溝			第10区/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位		先	
	(2.76)	0.40	0.12	逆台形	N-78.5°-E		後 SC03, SK03	
出土遺物	土器[第1区/図版-]				その他の遺物[第1区/図版-]			
概要	遺物の出土は確認されなかった。				出土遺物なし			
SD02に切られるため、全容は不明である。検出標高は11,900m。								



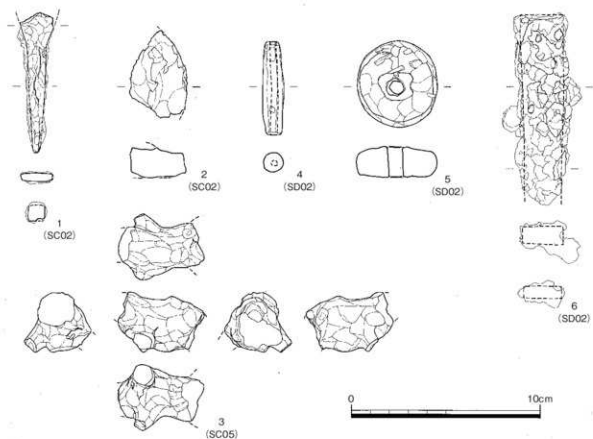
第10図 A区1~3号溝遺構実測図(1/40)



第 1 1 图 A区 5~7·9·12号住居跡、1号掘立柱建物跡、1·2号溝出土遺物実測圖 (1/4)



第 1 2 图 A区出土石製品実測圖 (1/2,1/3[1,3])



第13図 A区出土土製品・金属製品実測図(1/2)

5. ビット (P) (付図ノ一)

検出したビットは、約30基である。そのうちの多くのビットから遺物が出土しているが、いずれも図示にいらなかった。

第5章 B区の遺構と遺物

B区で検出した遺構は小児甕棺1基、祭祀土坑5基、土坑10基、溝6条、その他ピット50基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

1. 甕棺墓（ST）（第14図/図版2）

1号甕棺は3・4号溝に切られる形で検出した。甕棺の埋納角度は約30°である。

出土遺物（第15図/4）

上甕は底部が欠損している。内面に布あて具痕が残る。下甕はほぼ完形である。時期は弥生時代中期中葉以降と比定される。

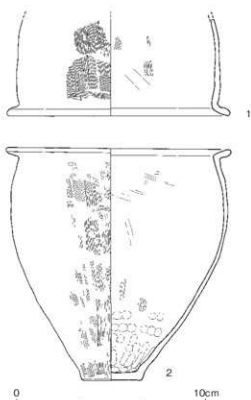
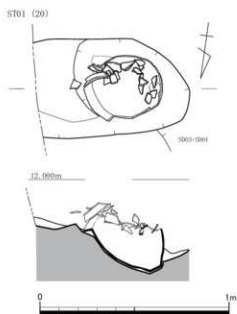
B区		1号祭祀土坑 第14図/図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02
	楕円	楕円	2.05	1.13	0.34~0.65	N-23.5°-E	後	
出土遺物	土器[第16・17図/図版4・5]					その他の遺物[第21図/図版8]		
	数多くの遺物が出土している。器種も壺・甕をはじめとして蓋、蹄台、支脚などが出土している。時期は弥生時代中期中葉以降に比定される。					多くの遺物が出土している。2は安山岩製の石鏃である。3は砂岩の砥石である。欠損箇所があるが、ほぼ全面を砥面として利用している。		
概要	調査区南側中央で検出。北側にテラス状の段を持つ二段掘りの土坑である。検出面から大量の土器を確認しており、埋土中からも土坑全体から大量の土器が出土した。また、埋土上位の北東部中央よりから、標高11.7mの地点で黒曜石の原石を検出した。							

B区		2号祭祀土坑 第18図/図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD02
	楕円?	楕円?	3.44	1.30	0.28	N-52.0°-E	後	
出土遺物	土器[第19・20図/図版5]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	数多くの遺物が出土。また、器種も多種にわたる。第19図の10は黒塗漆の頭部で、第20の1は坏部外面に僅かが丹が残る。時期は弥生中期中葉~後葉に比定される。					図示できなかった。		
概要	調査区南側中央で検出。北側側と南東側にテラス状の段を持つ祭祀土坑である。祭祀土坑中央の平坦面より、検出面から埋土中にかけて大量の土器が出土した。							

B区		3号祭祀土坑 第22図/図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円?	楕円?	3.55	1.32	0.26~0.57	N-14.0°-E	後	
出土遺物	土器[第23図/図版5]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	数多くの遺物が出土。器種は壺・甕・支脚など多種にわたる。時期は弥生中期前葉~中葉に比定される。					図示できなかった。		
概要	調査区中央東側で検出。南側にかけてテラス状の段を持つ祭祀土坑である。特に、南側のテラス状の段上から、大量の土器が出土した。また、土器とともに焼土も確認した。							

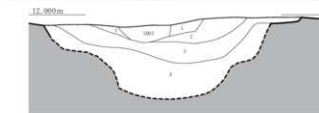
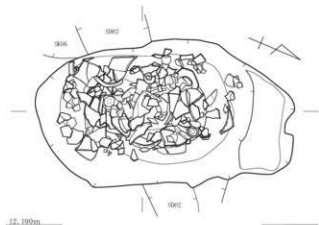
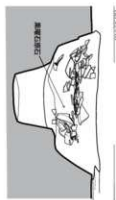
B区		4号祭祀土坑 第22図/図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円?	楕円?	4.38	0.65	0.09~0.38	N-12.5°-W	後	
出土遺物	土器[第23図/図版-]					その他の遺物[第25図/図版-]		
	やや多くの遺物が出土。器種も多種にわたる。時期は弥生中期前葉~中葉と比定される。					黒曜石の刮片が3点出土している。		
概要	調査区中央で検出。東側側と西側側にピットをもち、これらのピットをテラス状の段でつないでいる土坑である。東側側のピットからは、埋りかほぼ半分の壺が押しつぶされたような形で出土した。							

B区		5号祭祀土坑 第22図/図版2					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01
	楕円	楕円	1.67	1.32	0.40~0.83	N-9.5°-W	後	SK13
出土遺物	土器[第24図/図版5]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	頭部に突起を持つ壺や底部に丸みを持つ甕などが出土している。時期は古墳初頭か?					図示できなかった。		
概要	調査区西側側中央で検出。南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に二段掘りをした土坑である。土器は、南側から北側にかけて徐々に傾斜する壁面に沿って土坑中央よりから出土した。							



第15図 B区1号甕棺実測図(1/6)

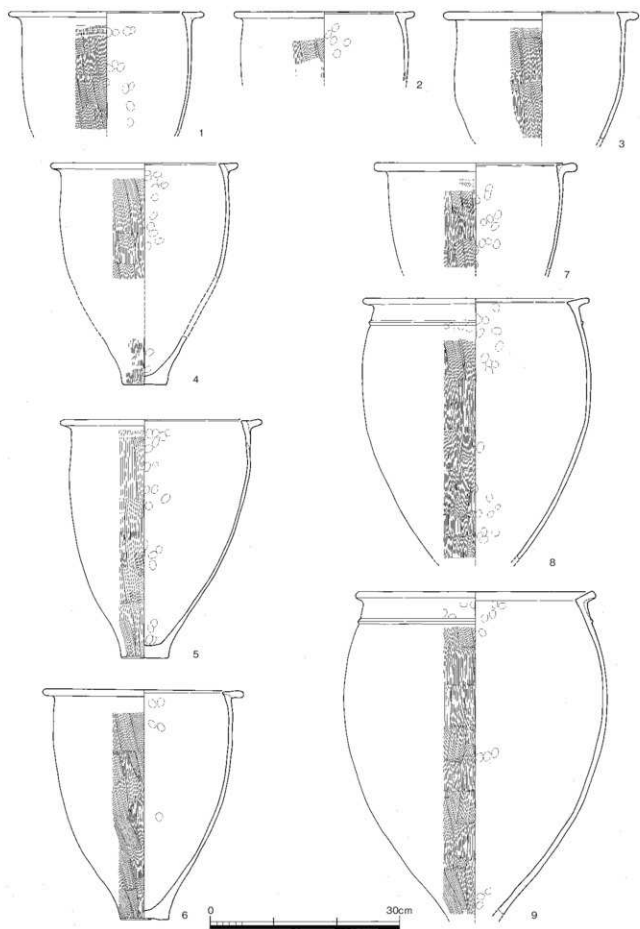
SF01 (30)



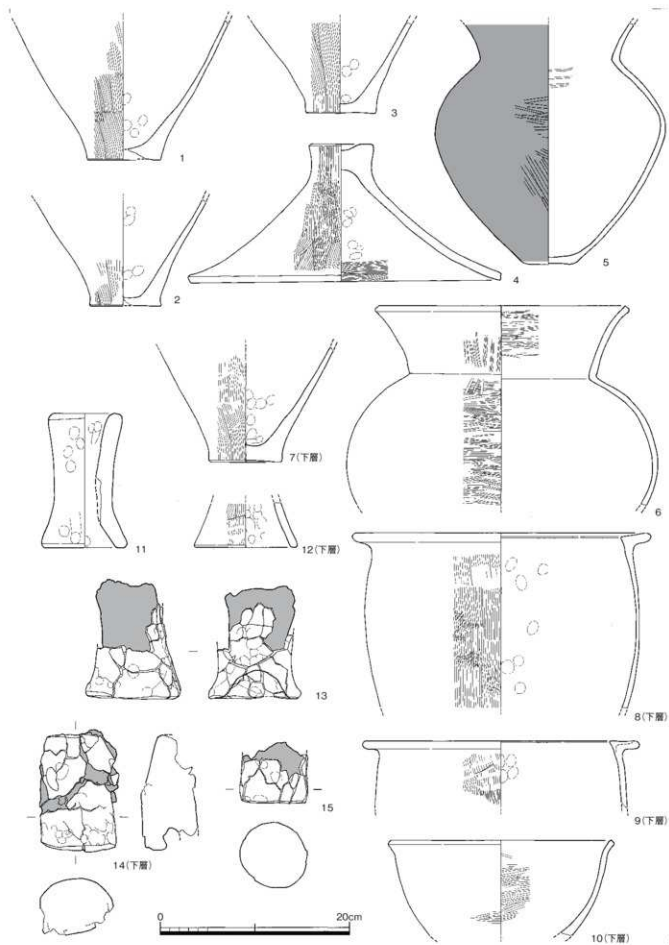
SF01 土層

- 1 灰褐色土(褐色の「a」(2cm入)少し含む。1m以下の微砂を中々多く含む。しきりあり。)
- 2 暗灰褐色土(1m以下)の微砂を中々多く含む。しきりあり。)
- 3 暗灰褐色土(1mより薄く)。1m以下の微砂を中々多く含む。しきりあり。)
- 4 灰褐色土(1mより薄く)。1m以下の微砂を中々多く含む。しきりあり。)

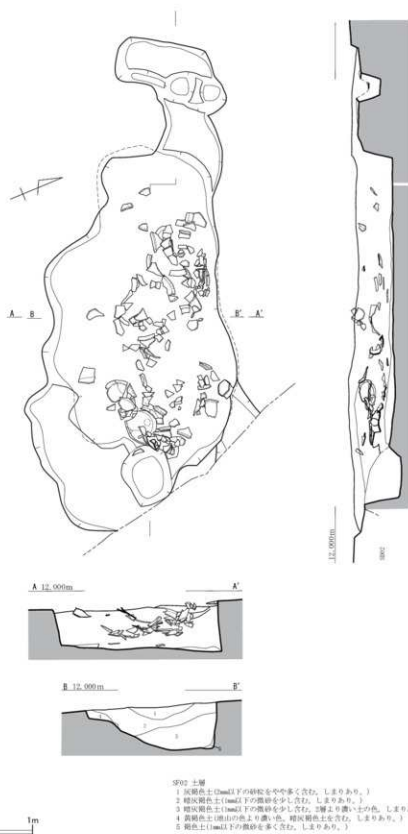
第14図 B区1号甕棺墓、1号祭祀土坑遺構実測図(ST01は1/20、SF01は1/30)



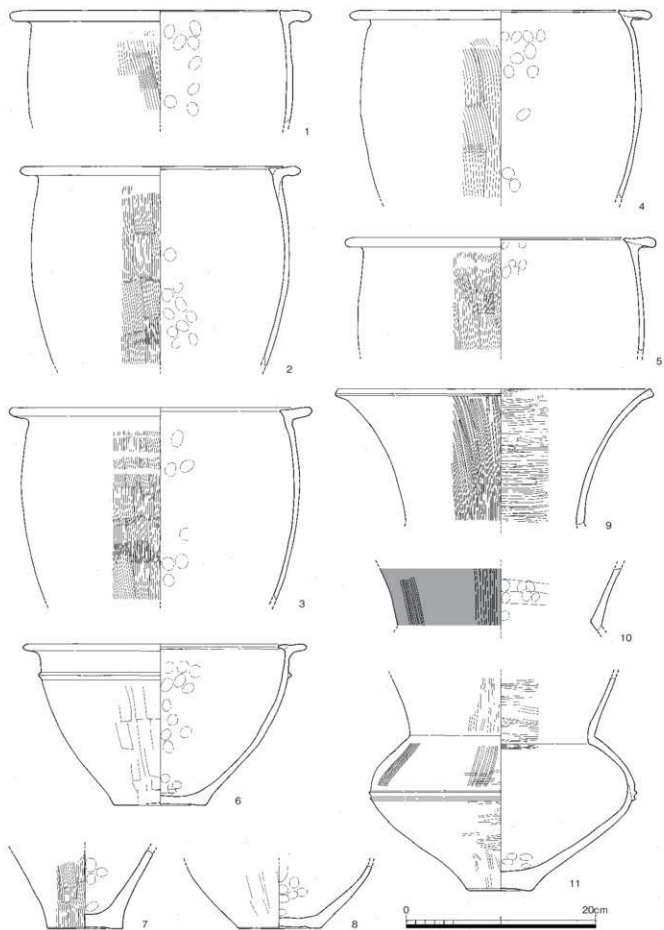
第16图 B区1号祭祀土坑出土器物实测图①(1/6)



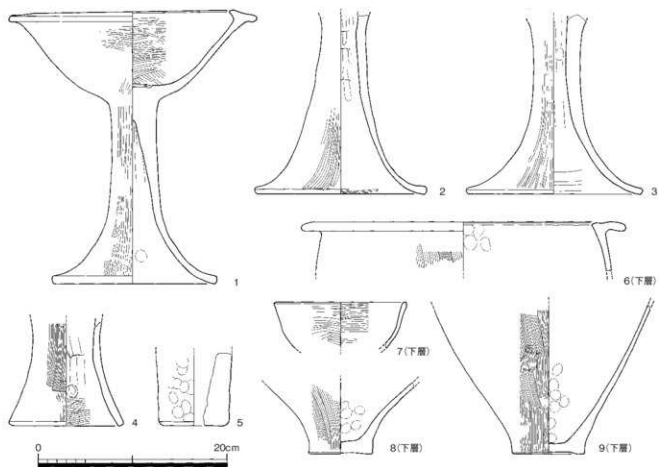
第17图 B区1号祭祀土坑出土遗物实测图②(1/4)



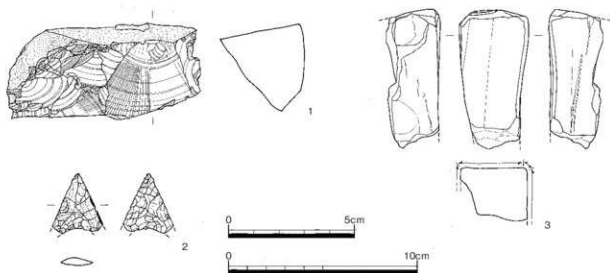
第18図 B区2号祭祀土坑遺構実測図(1/30)



第19图 B区2号祭祀土坑出土遗物实测图①(1/4)

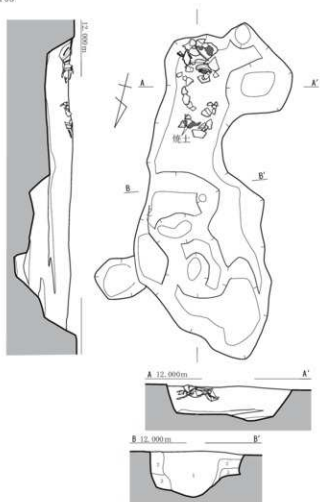


第20图 B区2号祭祀土坑出土遗物实测图②(1/4)



第21图 B区1号祭祀土坑出土石製品实测图(2/3[1.2]、1/2[3])

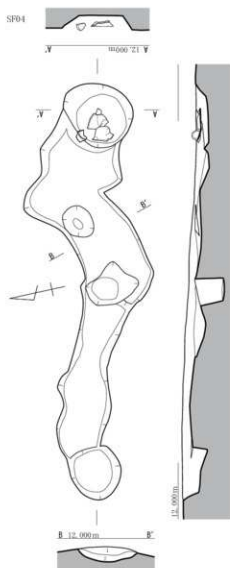
SF03



SF03 土層

- 1 緑泥褐色土(50cm×50cmの黄褐色砂*を多く含む、30cm以下の砂粒をやや多く含む、土量が多い。)
- 2 褐色砂(50cmの緑泥褐色土*を少し含む、土量あり。)
- 3 褐色砂(砂層。)

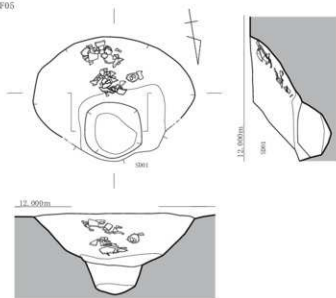
SF04



SF04 土層

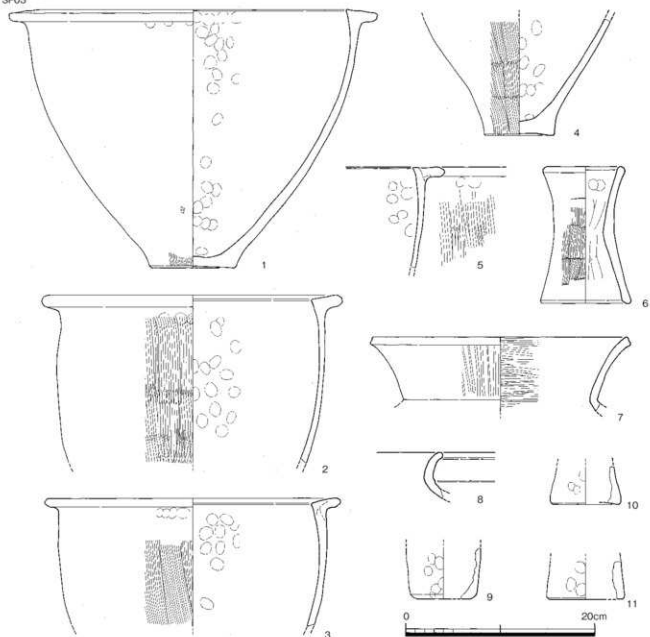
- 1 緑泥褐色土(30cm以下の砂粒を多く含む、土量あり。)
- 2 褐色砂(緑泥褐色土を少し含む、砂層。)

SF05

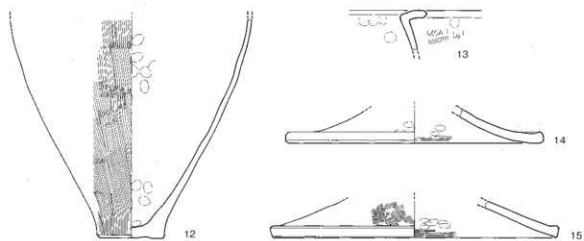


第22図 B区3～5号祭祀土坑遺構実測図(1/30)

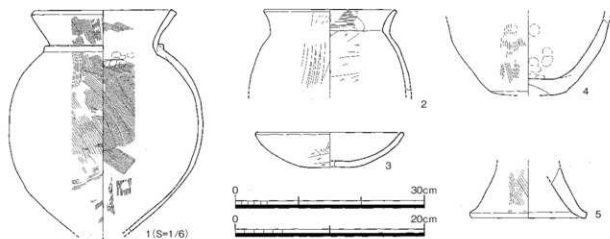
SF03



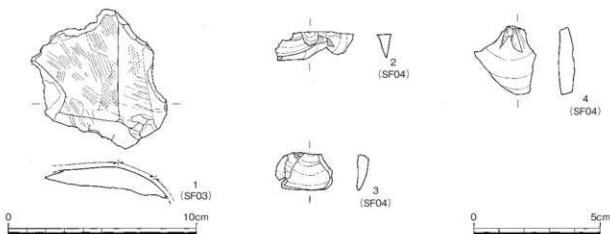
SF04



第23图 B区3・4号祭祀土坑出土遗物实测图 (1/4)



第24図 B区5号祭祀土坑遺物実測図 (1/6[1]、他1/4)



第25図 B区3・4号祭祀土坑出土石製品実測図 (1/2[1]、他2/3)

B区	2号土坑		第26図/図版-				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SF04
	楕円	楕円	2.35	1.93	0.32~0.63	N-8.5°-E	後	
出土遺物	土器[第29図/図版-]						その他の遺物[第一図/図版-]	
概要	2・4は瓦器碗で、高台は貼り付けである。時期は11世紀末~12世紀前半に比定される。						出土遺物なし	
	調査区中央で検出。埋土中上位の土坑中央より、残りの良い土器が出土。その他にも埋土中より多数の土器が出土。東側にテラス状の段を持つ土坑である。							

B区	3号土坑		第26図/図版-				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	1.92	1.73	0.26~0.73	N-9.5°-W	後	SD01
出土遺物	土器[第29図/図版-]						その他の遺物[第一図/図版-]	
概要	5は土師器の皿で上層からの出土である。時期は12世紀中頃までに埋没したと考えられる。						出土遺物なし	
	SK01同様、調査区中央で検出。SD01に北東側が一部切られる。西側にテラス状の段を持つ土坑である。							

B区	4号土坑		第26図/図版-				主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円	楕円	1.10	(1.05)	0.21	N-2°-W	後	SD01
出土遺物	土器[第29図/図版-]						その他の遺物[第一図/図版-]	
概要	7・8は甕である。時期は弥生時代中期中葉と比定される。						出土遺物なし	
	調査区北東で検出。SD01に北側が一部切られる。埋土中上位の土坑南側より、土器が出土。							

B区		5号土坑					第27図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		楕円	楕円	1.47	0.90	0.26~0.63	N-38.5°-E	後		
出土遺物	土器[第29図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	10~12は葉である。弥生中期中葉と比定される。					出土遺物なし				
概要	調査区南西端で検出。南西側にテラス状の段を持つ土坑である。									

B区		6号土坑					第27図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		楕円?	楕円?	1.00	(0.41)	0.15	N-6°-E	後	SD02	
出土遺物	土器[第29図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	13・14は葉である。15は丹塗り高坏の破片である。時期は弥生中期中葉に比定される。					出土遺物なし				
概要	調査区南側中央で検出。SD02に北側が切られる。東端には、SF01がある。									

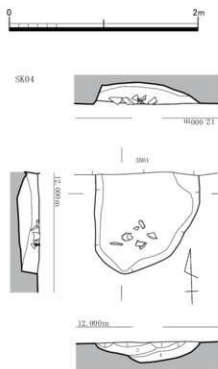
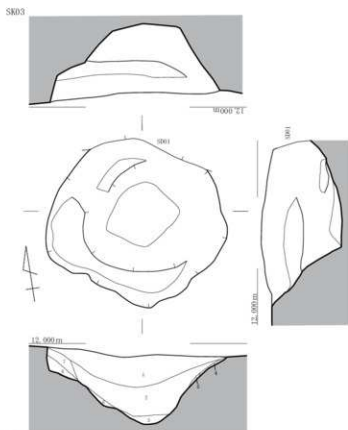
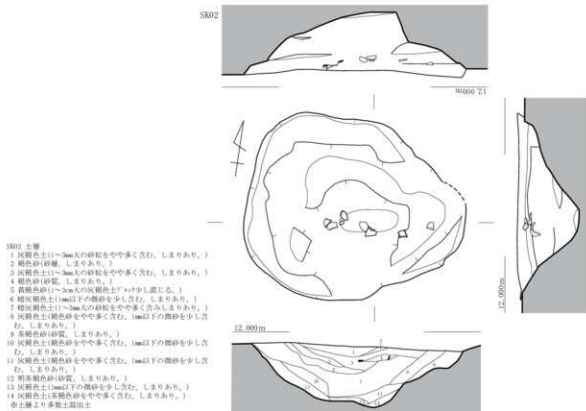
B区		8号土坑					第27図/図版2		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		方形?	方形?	1.83	1.54	0.80~0.20	N-25.0°-E	後	SD07	
出土遺物	土器[第一図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区中央で検出。南から北へ向かいテラス状の段を持つ土坑である。									

B区		9号土坑					第27図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		楕円	楕円?	0.91	0.89	0.32	N-11.5°-E	後		
出土遺物	土器[第29図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					出土遺物なし				
概要	調査区北東端で検出。土坑南側は掘りすぎたため不明。土坑中央に向かって徐々に深くなる。									

B区		11号土坑					第28図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		台形?	台形?	1.88	1.03	0.28~0.45	N-18.5°-W	後		
出土遺物	土器[第一図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区南側中央で検出。東側にF状の段を持つ土坑である。									

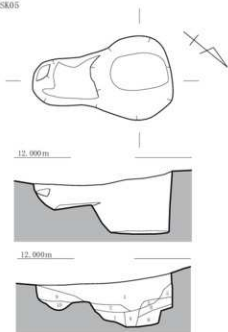
B区		12号土坑					第28図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		楕円	楕円	1.29	0.85	0.11~0.57	N-33.5°-E	後	SD07	
出土遺物	土器[第29図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	出土遺物はいずれも破片である。時期は弥生中期中葉か?					出土遺物なし				
概要	調査区西側中央で検出。土坑は二段掘りされている。									

B区		13号土坑					第28図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
		楕円	楕円?	1.27	(1.20)	0.18~0.33	N-6.5°-E	後	SF05	
出土遺物	土器[第一図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。					出土遺物なし				
概要	調査区西側端で検出。テラスが土坑全体に広がり入り組んだ形をしている。									



第26図 B区2~4号土坑遺構実測図(1/40)

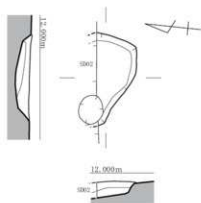
SK05



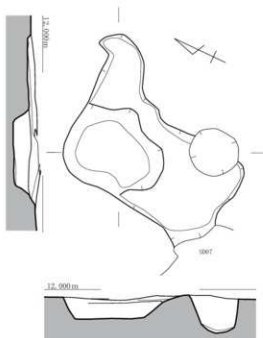
SK05 土層

- 1 緑褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 2 褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 3 黄褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 4 灰褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 5 黒褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 6 灰褐色土(1m未満)の土の質感が少し異なる。1m以下の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 7 緑褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 8 褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。しりりあり。1m以下の灰褐色土が少し含む。)
- 9 灰褐色土(1m未満)の砂粒を少し含む。1m以下の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)
- 10 褐色土(1m未満)の砂粒を少し含む。1m以下の砂粒をやや多く含む。しりりあり。)

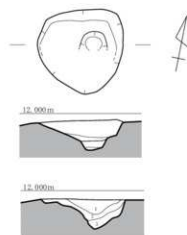
SK06



SK08



SK09

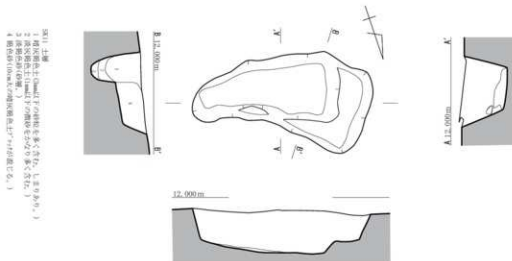


SK09 土層

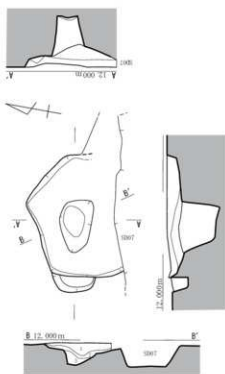
- 1 緑褐色土(1m以下)の砂粒をやや多く含む。やや粘質。しりりあり。)
- 2 灰褐色土(1m以下)の砂粒を多く含む。やや粘質。)
- 3 灰褐色土(1m以下)の土の質感が少し異なる。褐色が少し濃くなる。)

第27図 B区5・6・8・9号土坑遺構実測図(1/40)

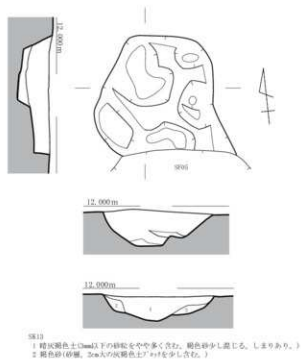
SK11



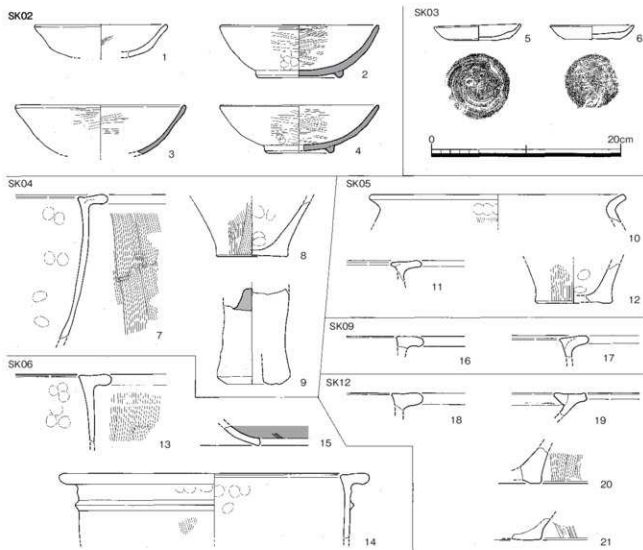
SK12



SK13



第28図 B区11~13号土坑遺構実測図(1/40)



第29图 B区2~6·9·12号土坑出土遗物实测图(1/4)

B区		1号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(11.95)	2.58	0.88~0.96	逆台形状	N-73.5°-E	後	SF05、SK03・04	
出土 遺物	土器[第31図/図版-]				その他の遺物[第32図/図版8]				
	1は上層より出土。3は下層より出土である。時期は17世紀中頃と比定される。				不明鉄製品が出土。				
概要	調査区北側を東西方向に横断する溝である。溝の中央部付近より東側にかけては、調査区外に広がっている。								

B区		2号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(13.10)	0.25~0.54	0.30	逆台形状	N-77°-E	後	SF01・02、SK06・11	
出土 遺物	土器[第 図/図版-]				その他の遺物[第 図/図版-]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。				出土遺物なし				
概要	調査区南側を東西方向に横断した後、東側溝でSD03に沿って北へカーブする溝である。築堤土境を切っており、特に、SF01付近では埋土中より多量の弥生土器が出土した。おそらくSF01を一部削平して溝を掘ったと考えられる。								

B区		3号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.99)	0.52~1.11	0.36	お椀形	N-78.5°-E	後	ST01、SD02・04	
出土 遺物	土器[第31図/図版-]				その他の遺物[第 図/図版-]				
	時期は17世紀後半以降と比定される。				出土遺物なし				
概要	調査区南東側溝を西側から東側にカーブした後、SD02の東側を切りながら南北方向に伸びる溝である。ST01も切っているため、ST01は上部を削平された状態で出土した。								

B区		4号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(0.67)	(0.61)	0.14~0.48	逆台形状	N-73.5°-E	後	SD03	
出土 遺物	土器[第31図/図版-]				その他の遺物[第 図/図版-]				
	時期は17世紀後半以降と比定される。				出土遺物なし				
概要	調査区南東側溝を南北方向に伸びる溝である。溝の大半をSD03に切られているため、全容は不明である。								

B区		5号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(1.20)	0.25	0.20	逆台形状	N-77°-E	後		
出土 遺物	土器[第 図/図版-]				その他の遺物[第 図/図版-]				
	遺物の出土はあったが、図示することができなかった。				出土遺物なし				
概要	調査区南側東よりから東側へのびる溝である。								

B区		7号溝				第 図/図版 -		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(3.65)	0.40~0.93	0.35	逆台形状	N-78.5°-E	後		
出土 遺物	土器[第31図/図版-]				その他の遺物[第 図/図版-]				
	いずれも細片であるが、時期は弥生中期中葉か。				出土遺物なし				
概要	調査区西側壁面より南東方向へのびる溝である。南東側が浅く、西側壁面に向かうにしたがい深くなる。								

5. ビット・その他

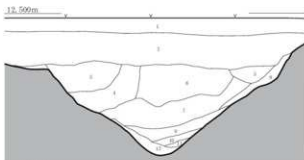
・ビット(P) (付図/ー)

検出したビットは約30基である。多くのビットから遺物が出土したが図示できたビットはP 004、P 007、P 034、P 055のみである。

出土遺物(第31・32図/ー)

P 004、P 007は弥生土器である。いずれも中期中葉以降に比定される。P 055は石錘である。

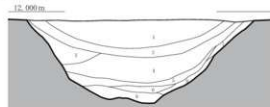
SD01 西壁土層



SD01 西壁土層

- 1 灰褐色土(100mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(1~2mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 3 灰褐色土(1~2mm大の微砂を少な含む。しまりあり。)
- 4 暗灰褐色土(6層よりほはが薄し。1~2mm大の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 5 暗灰褐色土(20mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 6 暗灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。土層を含む。)
- 7 灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 8 暗灰褐色土(100mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 9 灰褐色土(20mm大の黄褐色の"砂"を少し含む。しまりあり。)
- 10 暗褐色土(200mm大の微砂をやや多く含む。500mm大の黄褐色の"砂"を少し含む。しまりあり。)
- 11 暗褐色土(砂層。しまりあり。)
- 12 灰褐色土(100mm大の微砂をやや多く含む。しまりあり。)

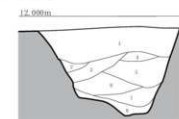
SD01 中央土層



SD01 中央土層

- 1 暗灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(100mm大の黄褐色の"砂"を少し含む。100mm以下の微砂を多く含む。)
- 3 暗灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。)
- 4 灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。)
- 5 暗褐色土(20mm以下の微砂を少し含む。)
- 6 灰褐色土(100mm大の微砂の"砂"を少し含む。100mm以下の微砂をやや多く含む。)
- 7 黄褐色砂(灰褐色土が少し混じる。砂層。)
- 8 灰褐色土(100mm以下の微砂を含む。)
- 9 暗褐色土(砂層。しまりあり。)

SD01 東側土層

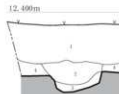


SD01 東側土層

- 1 暗灰褐色土(20mm以下の微砂をやや多く含む。しまりあり。)
- 2 暗赤褐色土(砂層。)
- 3 暗灰褐色土(20mm以下の微砂を多く含む。)
- 4 灰褐色土(100mm大の黄褐色土が少し含む。100mm以下の微砂を多く含む。)
- 5 灰褐色土(20mm以下の微砂を多く含む。)
- 6 灰褐色土(100mm以下の微砂を多く含む。)
- 7 暗灰褐色土(20mm以下の微砂を多く含む。4層より薄い色の土。)
- 8 暗褐色土(砂層。しまりあり。)



SD02 西壁土層



SD02 西壁土層

- 1 灰褐色土(シルト。100mm以下の微砂をやや多く含む。やや粘質。しまりあり。)
- 2 暗褐色土(シルト。100mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)
- 3 暗灰褐色土(シルト。100mm以下の微砂を少し含む。やや粘質。しまりあり。)
- 4 灰褐色土(黄褐色土の"砂"が500mm少し含む。100mm以下の微砂を少し含む。しまりあり。)

SD02 ベルト土層



SD02 ベルト土層

- 3 赤褐色西壁土層と同質。

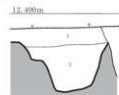
SD03 ベルト土層



SD03 ベルト土層

- 1 灰褐色土(20mm以下の微砂を少し含む。やや粘質。しまりあり。)
- 2 暗灰褐色土(20mm以下の微砂をわずかに含む。やや粘質。しまりあり。)
- 3 黄褐色土(灰褐色土が少し混じる。砂質。しまりあり。)

SD04 南壁土層



SD04 南壁土層

- 1 灰褐色土(20mm以下の砂粒を多く含む。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(SD03の1層よりやや濃い土。20mm以下の砂粒をやや多く含む。やや粘質。しまりあり。)

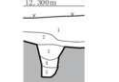
SD05 南壁土層



SD05 南壁土層

- 1 暗灰褐色土(20mm以下の砂粒を少し含む。500mm大の黄褐色土"砂"をわずかに含む。やや粘質。しまりあり。)
- 2 灰褐色土(暗褐色土が少し混じる。100mm以下の微砂をわずかに含む。しまりあり。)

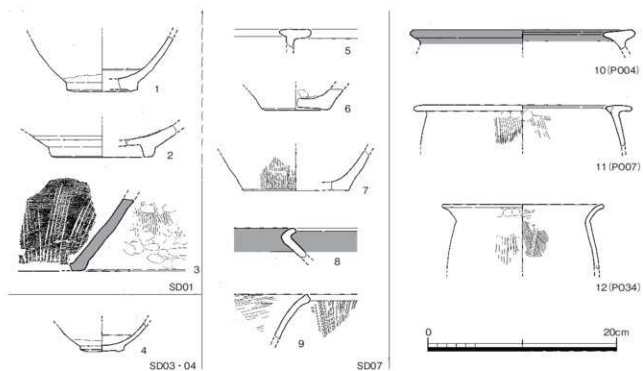
SD07 土層



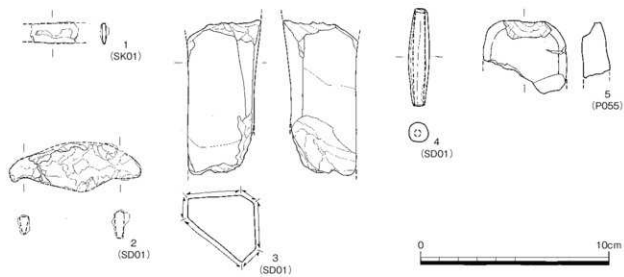
SD07 土層

- 1 暗灰褐色土
- 2 暗灰褐色土(200mm大の黄褐色土"砂"を少し含む。)
- 3 灰褐色土(20mm以下の砂粒をやや多く含む。)
- 4 暗褐色土(20mm以下の砂粒を多く含む。粘質。しまりあり。)
- 5 暗灰褐色土(20mm以下の微砂を多く含む。粘質。しまりあり。)

第30図 B区1~5・7号溝遺構実測図(1/40)



第31図 B区溝、ビット出土遺物実測図(1/4)



第32図 B区土坑、溝、ビット出土石製品・土製品・金属製品実測図(1/2)

第6章 C区の遺構と遺物

C区で検出した遺構は住居跡17基、土坑21基、周溝状遺構1基、溝13条、その他ビット約140基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

C区	2号住居跡								第33図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形	あり	(2.34)	(2.14)	0.08	0.08	—	—	N-75.5°-E		
出土遺物	土器[第38図/図版-]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	出土遺物は貼床直土中より幾底部が出土している。時期は弥生中期後葉に比定される。周辺住居との先後関係より、遺構の時期は弥生後期末～古墳初頭以降であろう。								出土遺物なし。			
概要	南側は表土剥き時に土層を下げすぎ、西側は調査区外へ広がる為全容は不明。検出できたのは、東側から南側にかけての貼床で、露呈している状態で検出した。主柱穴は不明。下層掘り込みは北側に幅20cm前後のV字状段をもつ。											

C区	3号住居跡								第33図/図版2、3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形	あり	(1.68)	(1.50)	0.20	0.12	—	—	N-21.5°-E		
出土遺物	土器[第38図/図版6]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	3は竈の底部である。外面下半はV字調整、胴部はV字を削している。弥生終末期～古墳の初頭に比定できよう。								出土遺物なし。			
概要	調査区北端東側で住居の一部分を検出。全容は不明である。貼床と考えられる硬化する面を確認できたが、他の住居に比べやや軟質である。下層遺構は、一部分にV字状段をもつ。											

C区	4号住居跡								第33図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形	あり	4.24	(3.56)	0.10	0.12	—	—	N-35°-W		
出土遺物	土器[第38図/図版5]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	SC02・03同様、弥生中期の遺物が混じるが、弥生終末期～古墳の初頭に比定できよう。図示可能な同時期の遺物は9のみであった。9は直頭の様か?外面はV字後調整。								出土遺物なし。			
概要	南側を表土剥き時に下げすぎ、一部貼床が露呈。住居東側は調査区外へと広がる。貼床面にて、土器が出土している(第38図-9)。主柱穴は不明である。下層遺構は北側と南東側に掘り込みを持つ。											

C区	5号住居跡								第33図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形	あり	4.24	(1.96)	0.16	0.12	1	—	N-24°-E		
出土遺物	土器[第38図/図版-]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	出土遺物から弥生中期後葉～末に比定される。が、住居の構造からは、弥生終末～古墳初頭の可能性も否定できない。								出土遺物なし。			
概要	土層を表土剥き時に下げすぎ、また住居の大半が調査区外へと広がる為、全容は不明である。主柱穴は貼床面で検出された。											

C区	6号住居跡								第34図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形	あり	4.40	(3.70)	0.12	0.06	4	—	N-74°-E		
出土遺物	土器[第38図/図版-]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	出土遺物の時期は弥生中期後葉と考えられるが、周辺の遺構より弥生終末～古墳初頭以降の可能性も否定できない。								出土遺物なし。			
概要	土層を表土剥き時に下げすぎたため、貼床が一部露呈している状態で検出した。											

C区	7号住居跡								第34図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後		
		方形?	—	3.74	(0.92)	(0.16)	—	—	N-79.5°-W			
出土遺物	土器[第一図/図版-]								その他の遺物[第一図/図版-]			
	出土遺物は少量で支脚や幾底部片などが出土。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期中葉以降であろう。								出土遺物なし。			
概要	北側が調査区外へ広がる為、詳細は不明である。貼床も確認できなかった。											

C区		8号住居跡						第34図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		長方形	—	3.22	(2.92)	(0.20)	—	—	N-5°-W	SD01・04	
出土 遺物	土器[第38図/図版-]								その他の遺物[第-図/図版-]		
	外周の後は「 η 」を施す蓋や鉢、 η 材後調整の竈などが出土している。出土遺物なし。 弥生終末～古墳初頭と比定される。表土剥ぎ、及び雨天後の精査段階で上層を掘り過ぎ、南側がSD01によって切られるため、全容は不明である。										
概要											

C区		9号住居跡						第35図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	5.32	5.22	0.14	0.06	3	—	N-47.5°-E	SD01・02・03 SC20, SD13
出土 遺物	土器[第39図/図版5、7]								その他の遺物[第-図/図版-]		
	多くの遺物が出土。底部が丸みを帯びる平底甕や持ち手を持つ支脚などが出土している。弥生終末～古墳初頭に比定される。出土遺物なし。										
概要											
東側を表土剥ぎ時に下げすぎており上層は不明な点が多い。西側で、土状遺構に多くの遺物が出土している。また、北側では貼床面で多くの遺物を確認した。下層掘り込みは東側において顕著である。											

C区		10号住居跡						第35図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	4.26	(3.20)	0.10	0.10	2	—	N-7.5°-E	SD03, SC02, SK07 SC04
出土 遺物	土器[第-図/図版-]								その他の遺物[第42図/図版-]		
	出土遺物は少量の弥生中期後葉の土器細片が出土しているが、1は石製の投擲が出土している。 先後関係より住居はこの時期ではないと考えられる。										
概要											
表土剥ぎ時に特に西側を下げすぎ、貼床を露呈している状態で検出された。また、多くの遺構に切られるため、全容は不明である。南東から、北東方向に向けて「 β 」状の遺構を検出したが、検出できた箇所がわずかで、雨天後の精査で削平してしまい南東化することができなかった。											

C区		11号住居跡						第36図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	あり	4.60	(2.96)	0.12	0.12	—	—	N-8.5°-W	SK07, SC13, P022など
出土 遺物	土器[第-図/図版-]								その他の遺物[第42図/図版-]		
	出土遺物は貼床下層からの出土である。時期は弥生中期後葉。 住居の時期はこれ以降であろう。										
概要											
10号住居同様、表土剥ぎ時に西側を下げすぎ、貼床が露呈している状態で検出された。また、他遺構に切られるため、全容は不明である。											

C区		12号住居跡						第36図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形?	あり	4.60	(3.60)	0.10	0.22	—	—	N-70°-W	SD01・04, P029他
出土 遺物	土器[第39～41図/図版5～7版]								その他の遺物[第-図/図版-]		
	非常に多くの遺物が出土している。甕や蓋、鉢、器台、支脚などバリエーションに富んでいる。時期は弥生終末～古墳初頭であろう。										
概要											
表土剥ぎ時に住居東側を下げすぎ、貼床が露呈している状態で検出。住居中央部より西側において上層から貼床面まで大量の土器が確認できた。住居発掘時に土器も一括して廃棄したと考えられる。住居西側では、地山をそのまま利用したと考えられる「 β 」状遺構を確認した。下層掘り込みは、西より南側方向に向けて、溝状の掘り込みを確認している。											

C区		13号住居跡						第36図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形	—	(2.40)	(1.20)	(0.04)	—	—	N-8.5°-W	SK06 SC11	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]								その他の遺物[第-図/図版-]		
	出土遺物なし。										
概要											
上層を表土剥ぎ時に掘りすぎ、住居西側は調査区外へと広がるため、全容不明である。											

C区		14号住居跡						第37図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
		方形?	—	(2.74)	(1.18)	(0.44)	—	—	N-17.5°-E	SD06 SC15	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]								その他の遺物[第-図/図版-]		
	少量の遺物が出土している。弥生後期中葉の遺物が混じるが終末～古墳初頭であろう。										
概要											
東側をSD06に切られる。南側は調査区外へと広がるため詳細不明である。											

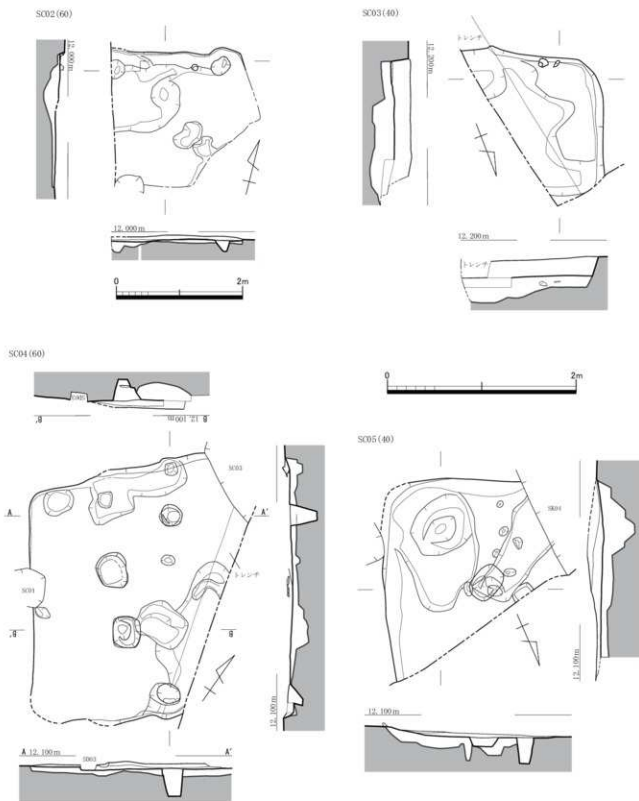
C区		15号住居跡					第37図/図版-		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
	方形?	—	(2.66)	(2.26)	(0.10)	—	—	N-5°-E	先	後	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土土器は図示するに至らなかったが、いずれも弥生終末～古墳初期に比定される。 東側をSCI5に切られ、南側は調査区外へと広がる。全容は不明である。										

C区		16号住居跡					第37図/図版-		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
	方形?	—	3.84	(0.78)	(0.04)	—	—	N-82°-E	先	後	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	出土土器は少量で、弥生中期後葉以降であろう。 北側をSD02にきられ、南側は調査区外へと広がるため、全容は不明である。										

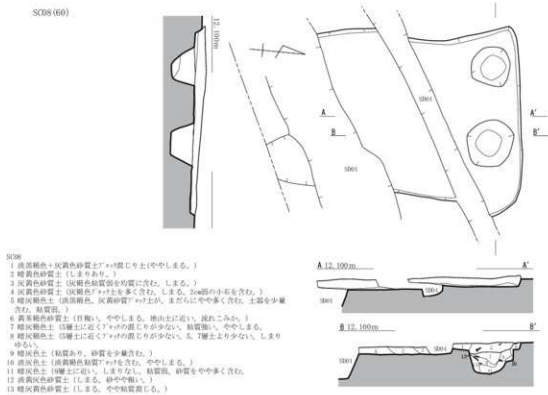
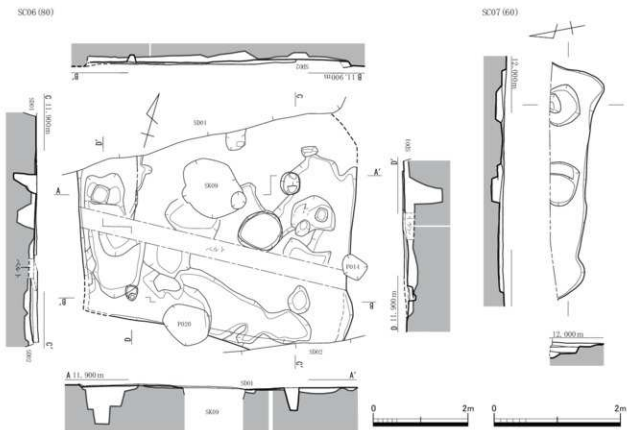
C区		17号住居跡					第37図/図版3		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
	方形	—	(1.44)	(1.30)	(0.14)	—	—	N-25.5°-E	先	後	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	弥生土器細片が微量に出土している。 検出できたのは住居3十部分である。SD01に切られ、全容は不明である。										

C区		20号住居跡					第37図/図版3		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
	方形	あり	4.42	(3.12)		—	伊か?	N-23°-E	先	後	
出土 遺物	土器[第38図/図版-]						その他の遺物[第42図/図版-]				
概要	外面に伊丹調整された支脚、礎などが出土している。じきは弥生終末～古墳初期に比定される。 南側をSD02に、東側をSC09に切られる。住居北西で東側をSC09に切られるが、ベッド状遺構を検出。南北1m、東西2.2m(残存状況)である。西端で焼土・炭を検出した。伊跡かと考えられる。下層掘り込みは住居全体に及び、土坑状の掘り込みを検出した。										

C区		21号住居跡					第37図/図版-		主な遺構との先後関係		
構造	平面形態	貼床	長軸	短軸	深さ	主柱穴	火床施設	長軸方位	先	後	
	方形?	なし	(1.5)	(0.74)	(0.3)	—	—	N-77.5°-E	先	後	
出土 遺物	土器[第-図/図版-]						その他の遺物[第-図/図版-]				
概要	少量の弥生土器片が出土した。時期は弥生中期～後期の土器片である。いずれも図示することができなかった。 住居3十部分を検出した。南側が調査区外へと広がるため詳細は不明で、8号土坑としたが、隣接する小板井屋敷跡跡(1925年度調査)の調査結果より、住居であったことが判明した。										

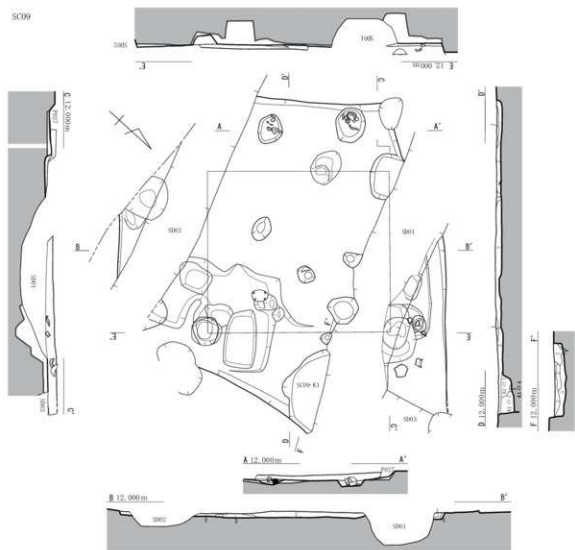


第33図 C区2～5号住居跡遺構実測図 (2.4は1/60、3.5は1/40)



第34図 C区6～8号住居跡遺構実測図（6は1/80、7,8は1/60）

SC09

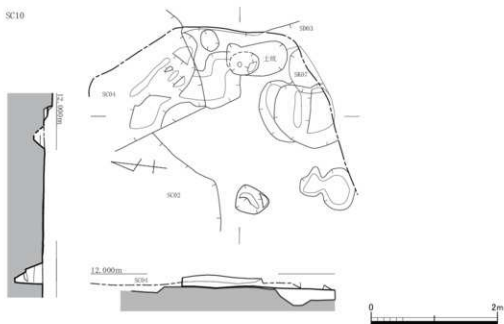


1 輝反硝色土 (粘質面、しまりなし。)
 2 輝反硝色土 (黄褐色) のアツ・草褐色湖山土を少量含む。ややしまる。粘質面。
 3 輝反硝色土 + 黄褐色アツ土の混じり土 (やや弱くしまる。)
 4 草褐色土 (黄褐色湖山土を軽子状に多く含む。)
 5 草褐色土 + 黄褐色アツ土 + 土層に混じる。弱くしまる。

SC09

- 1 輝反硝色土 (粘質面、しまりなし。)
- 2 輝反硝色土 (黄褐色) のアツ・草褐色湖山土を少量含む。ややしまる。粘質面。
- 3 輝反硝色土 + 黄褐色アツ土の混じり土 (やや弱くしまる。)
- 4 草褐色土 (黄褐色湖山土を軽子状に多く含む。)

SC10

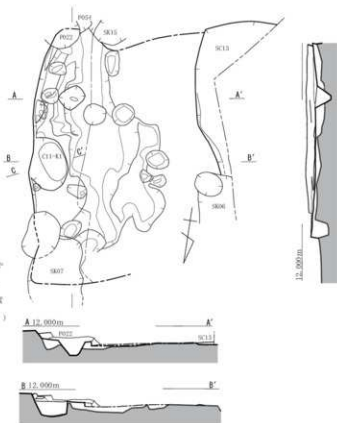


第35図 C区9・10号住居跡遺構実測図 (1/60)

SC11



- SC11-11 (A-C)
- 1 褐色砂質土 (黄褐色砂質土を少量含む。)
 - 2 黄褐色土 (黄褐色土+黄褐色砂質土を中々多く含む。)
 - 3 黄褐色ブロック土+黄褐色地山ブロック土の混じり土
 - 4 黄褐色砂質土 (概らわい、流れこみあり)
 - 5 黄褐色ブロック土+黄褐色土+黄褐色砂質土の混じり土 (中々多量。)
 - 6 黄褐色砂質土 (黄褐色地山を少し含む、流れこみ。)
 - 7 黄褐色ブロック土+黄褐色地山ブロック土の混じり
 - 8 黄褐色土 (黄褐色土を含む。)



SC12

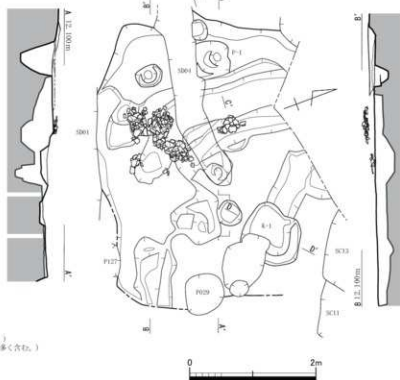


- SC12 P-1 (A-C)
- 1 黄褐色土 (黄褐色地山土を少量含む、粘質。)
 - 2 黄褐色土 (黄褐色地山土を少量、明黄褐色土を中々多く含む、粘質。)
 - 3 明黄褐色土 (黄褐色地山土を多量、明黄褐色土を中々多く含む、粘質。)
 - 4 明黄褐色土 (黄褐色地山土を多量、明黄褐色土を非常に多く含む、固くしまる。)
 - 5 黄褐色土 (黄褐色地山土を中々多く含む、固くしまる。)
 - 6 黄褐色土 (黄褐色地山土を非常に多く含む、黄褐色地山土を中々多く含む、固くしまる。)
- ※1-6層ワザメ土層?

SC12 K-1 (D-B)

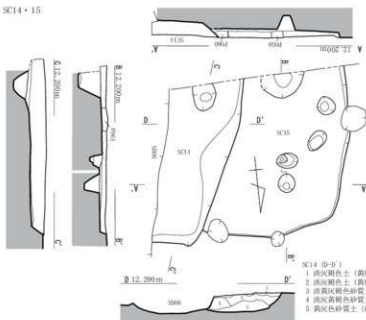


- SC12 K-1 (D-B)
- 1 黄褐色土 (黄褐色地山土を少量含む。)
 - 2 黄褐色土 (黄褐色地山土を、粘土状に中々多く含む。)
 - 3 黄褐色土 (黄褐色地山土+黄褐色地山土を非常に多く含む。)
 - 4 黄褐色地山ブロック+黄褐色地山ブロックの混じり土

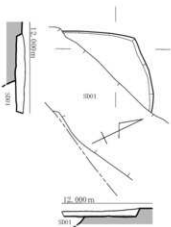


第36図 C区11・12号住居跡遺構実測図(1/60)

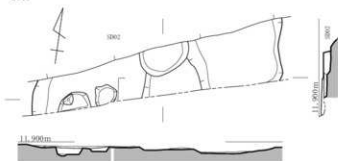
SC14・15



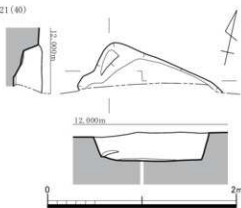
SC17



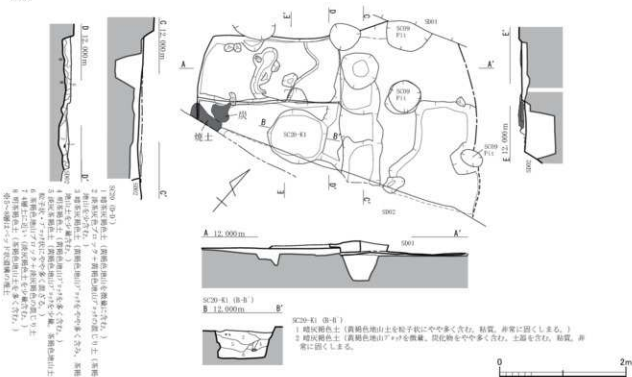
SC16



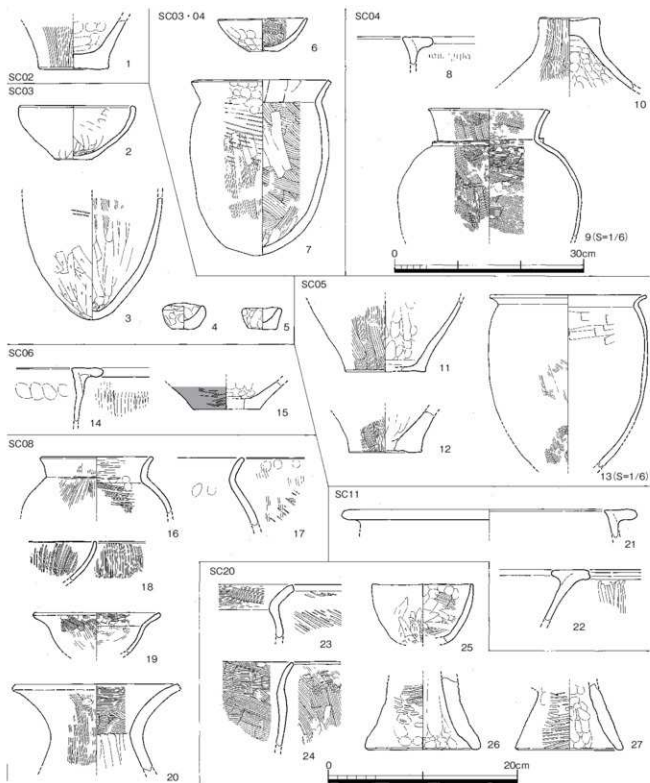
SC21 (40)



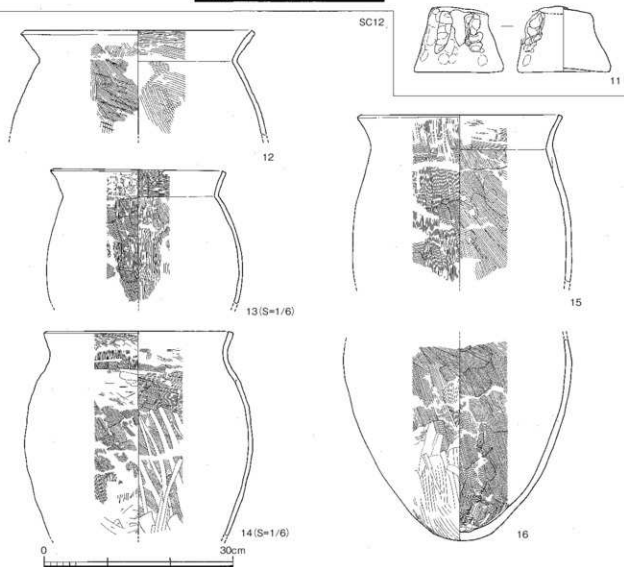
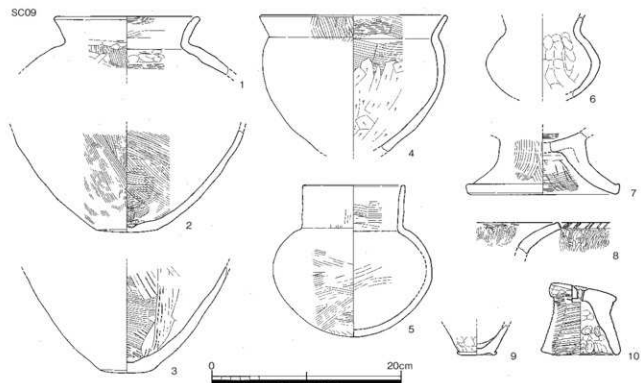
SC20



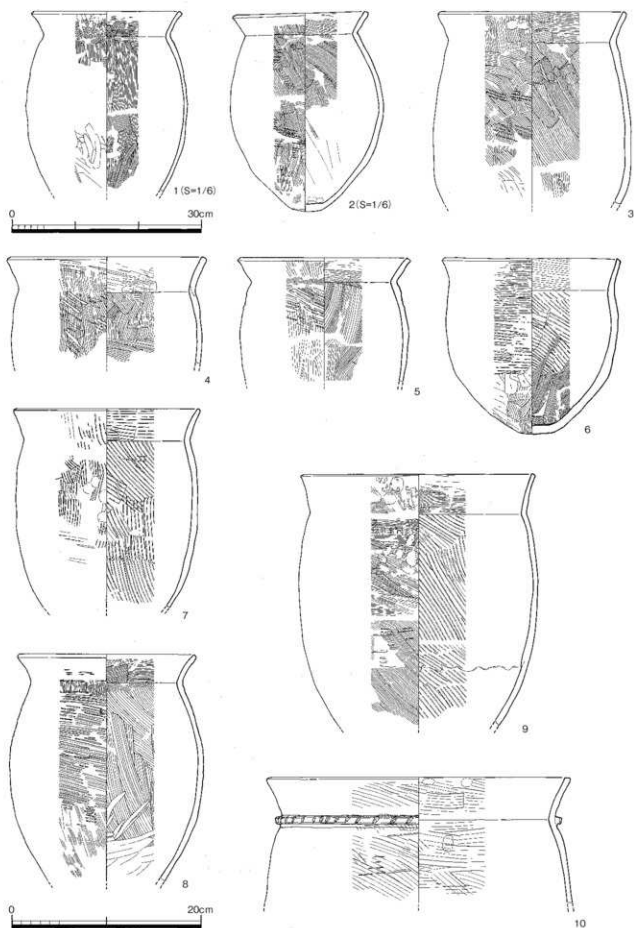
第37図 C区14~17・20・21号住居跡遺構実測図 (1/60, 21は1/40)



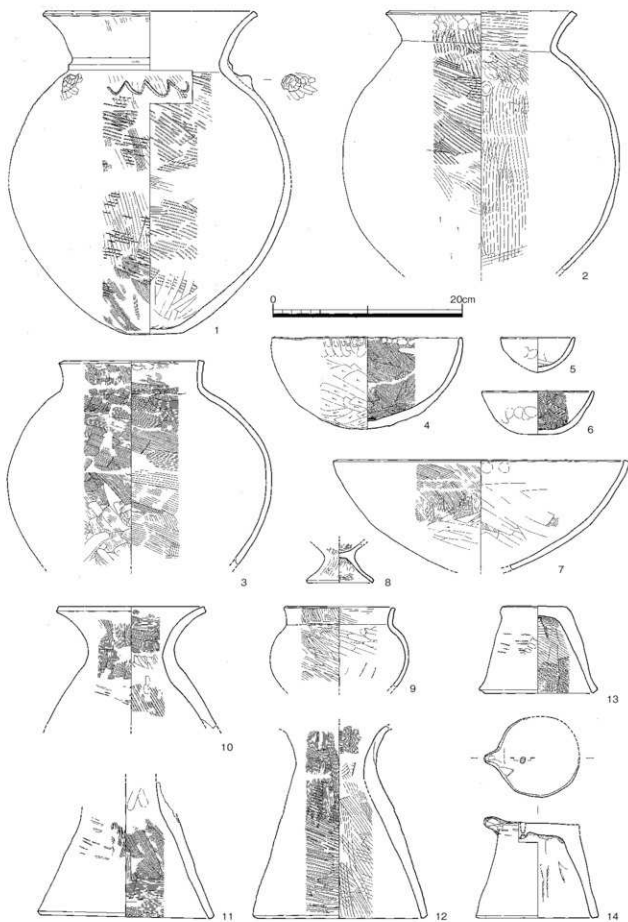
第38图 C区2~6·8·11·20号住居跡出土遺物実測図 (1/4、1/6[9,11])



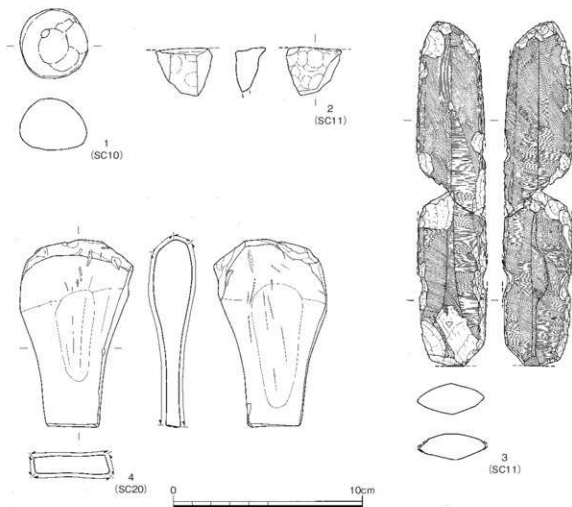
第39图 C区9·12号住居跡出土遺物実測図①(1/4、1/6[13,14])



第40图 C区12号住居跡出土遺物実測図②(1/4)



第41图 C区12号住居跡出土遺物実測図③(1/4)



第42図 C区住居跡出土石製品、土製品遺物実測図(1/2)

2. 土坑 (SK)

C区		1号土坑					第43図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	(2.44)	(0.60)	0.10~0.78	N-11.5°-E	後	SK02		
出土遺物	土器【第一図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】			
	青磁片や須恵器細片などが出土したが、図示するに至らなかった。時期は中世以降であろう。						出土遺物なし			
概要	調査区北東隅で検出。大半が調査区外へと広がるため詳細は不明な点が多い。南から北へ、徐々に段を持ちながら低くなる。									
C区		2号土坑					第43図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円?	楕円?	(0.92)	(0.72)	0.12~0.34	N-78.5°-W	後	SK01		
出土遺物	土器【第一図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】			
	弥生土器の細片が出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期前葉~後葉であろう。						出土遺物なし			
概要	SK01同様、調査区北東隅で検出。大半が調査区外へと広がり、SK01に切られる為、詳細は不明である。北から南へと低くなる。									
C区		3号土坑					第43図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先			
	楕円	楕円	1.1	1.00	0.06	N-62°-W	後	P001・002・003 SC05		
出土遺物	土器【第一図/図版-】						その他の遺物【第一図/図版-】			
	弥生土器の細片が出土。いずれも図示できなかった。						出土遺物なし			
概要	検出した土坑は浅く、性格は不明である。埋土中に炭が微量だが混じる。									

C区		4号土坑		第43図/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	(3.46)	(1.28)	(0.36~0.56)	N-12.5°-E	
出土 遺物	土器[第47図/図版7]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	多くの土師器、皿、瓦器などが出土した。1・3・5・8・14は漆喰が付着しており、灯明皿の可能性ある。土坑の時期は12世紀中頃～13世紀前半に比定される。					出土遺物なし		
概要	土坑の東側と北側は調査区外へと広がり全容は不明である。北より南へ向かい段を持ちながら低くなる。遺物は南側で多く出土していることが特徴である。また、多くの遺物が底部を下にして出土しているが、性格不明である。							

C区		5号土坑		第44図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円?	楕円?	(1.06)	(0.24)	0.14	N-14°-E	
出土 遺物	土器[第一図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	弥生土器の細片が少量だが出土した。いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期頃か?					出土遺物なし		
概要	土坑の西側は調査区外へと広がるため詳細は不明な点が多い。							

C区		7号土坑		第44図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	1.38	0.88	0.12~0.30	N-6.5°-E	
出土 遺物	土器[第47図/図版-]					その他の遺物[第47図/図版-]		
	22は上層より出土の彩台である。弥生中期後葉以降であろう。土坑の時期は弥生中期後葉～未までと比定される。					32は安山岩製の石甕丁である。全体的に摩滅している。		
概要	南から北へ向かい段を持ちながら下がる。土坑のほぼ中央中段位より、遺物が出土している。							

C区		9号土坑		第44図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	0.96	0.96	0.19	N-12.5°-E	
出土 遺物	土器[第47図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	23は壺か鉢の底部である。底に蕾状の圧痕が残る。その他、瓢形土器片などが出土。時期は弥生中期末と比定される。					出土遺物なし		
概要	土坑のほぼ中央あたり、検出面直下において土器がまぎって出土している。							

C区		10号土坑		第44図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	(1.98)	0.96	0.12~0.47	N-0.5°-E	
出土 遺物	土器[第一図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	弥生土器の細片が出土しているが、図示するに至らなかった。					出土遺物なし		
概要	南側にY字状の段を持つ土坑である。埋土中に遺物を含む。							

C区		11号土坑		第45図/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	2.94	(2.20)	0.24	N-72.5°-E	
出土 遺物	土器[第47図/図版-]					その他の遺物[第47図/図版8]		
	遺物の出土は微量でいずれも破片である。25は弥生中期後葉～終末の埜で、内外面ゆで調整している。					33は土製投擲である。		
概要	中央に柱穴を検出した。北側が調査区外へと広がるため詳細は不明である。住居の可能性がある。							

C区		12号土坑		第45図/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	後
		楕円	楕円	2.04	(1.62)	0.42~0.68	N-28°-E	
出土 遺物	土器[第47図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]		
	須恵器片や土師器片などが出土している。時期は7世紀後半以降であろう。					出土遺物なし		
概要	SD02に切られる為、全容は不明な点が多い。							

C区		13号土坑		第45回/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		楕円	楕円	2.40	1.86	0.28	N-56°-W	後
出土 遺物	土器[第47回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	須恵器破片や土師器の破片が出土している。27は土師器の坏である。須恵器の模造品か?時期は世紀以降であろう。柱穴状の掘り込みが基礎確認できたが、用途不明である。			出土遺物なし				

C区		14号土坑		第45回/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		楕円	楕円	0.92	0.7	0.20	N-47°-E	後
出土 遺物	土器[第47回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	底部はやや平底の名残が残るが丸底である。また、器台も出土している。時期は、弥生後期中葉~後葉であろう。埋土中に遺物を含む。			出土遺物なし				

C区		16号土坑		第46回/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		楕円	楕円	0.86	0.76	0.42	N-83.5°-E	後
出土 遺物	土器[第47回/図版6]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	遺物の出土は少量である。30は小形の鉢で、胴部中に1条の突帯、口唇部は欠損もしくは打ち欠きの可能性あり。時期は弥生中後葉以降であろう。土坑の上層~中層にかけて遺物を検出した。			出土遺物なし				

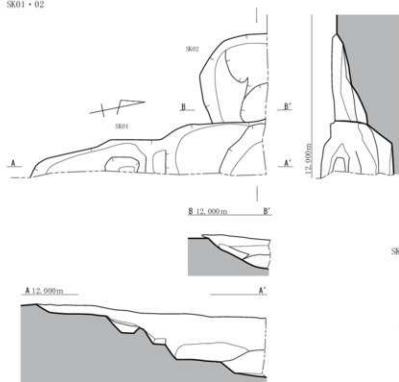
C区		17号土坑		第46回/図版3			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		方形?	方形?	(1.84)	(0.46)	0.19~0.56	N-81.5°-E	後
出土 遺物	土器[第47回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	31は脚付鉢と報告しておく。内外面調整である。上下逆の可能性ある。その他須恵器の細片が出土している。北面及び東側は調査区外へと広がる為全形は不明であるが、検出した土坑より、方形の可能性ある。土坑の中央は柱穴状に掘り下がり下層にいくつか遺物が出土している。掘り下がっている東西両側に柱状の段を持つ。			出土遺物なし				

C区		19号土坑		第46回/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		楕円	楕円	2.52	0.88	0.10	N-64°-E	後
出土 遺物	土器[第一回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	底部が凸凹状の裏の底部片などから、弥生後期末~古墳初頭以降に比定されよう。SD01に切られるため、全容は不明である。			出土遺物なし				

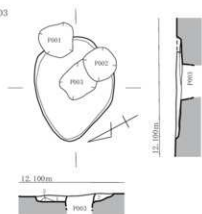
C区		20号土坑		第46回/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		方形?	方形?	2.94	(1.20)	0.18~0.44	N-86°-W	後
出土 遺物	土器[第一回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	丹塗土器片や弥生土器裏破片などが出土、いずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期末以降であろう。北面が調査区外へと広がるため全形は不明だが、検出した土坑より、方形の可能性ある。土坑は西から東へと広がる。			出土遺物なし				

C区		21号土坑		第46回/図版-			主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
		やや方形?	やや方形?	1.62	(0.50)	0.18	N-80°-E	後
出土 遺物	土器[第一回/図版-]			その他の遺物[第一回/図版-]				
概要	少量の遺物が出土した。いずれも細片のため図示するに至らなかった。時期は弥生後期中葉~終末であろう。南側が調査区外へと広がるため、全体形は不明。やや方形気味のため住居の可能性も遺構である。			出土遺物なし				

SK01・02



SK03

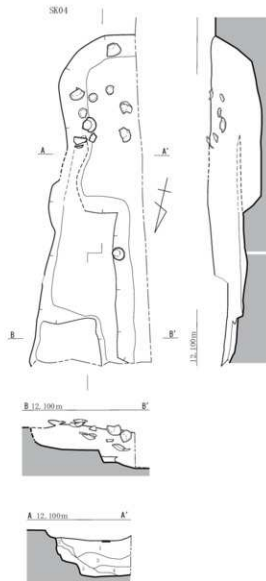


SK03

- 1 明灰褐色ブロック土 (1~2mの黄褐色アモトをやや多く含む、炭が少量混じる、固くしまる。)
- 2 明灰褐色ブロック土+黄褐色粘土ブロック土 (少量に炭混じる、固くしまる。)
- 3 凝土とはほぼ同じ (黄褐色アモトを凝土より多く含む、炭は混じらない。)



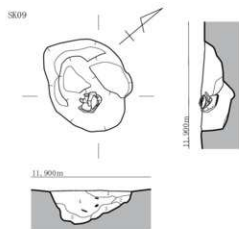
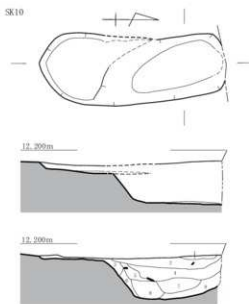
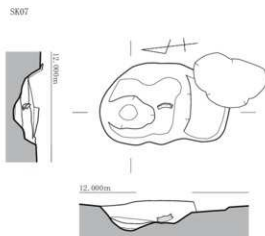
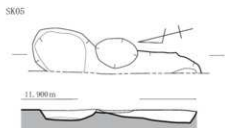
SK04



SK04

- 1 明灰褐色土 (褐色アモトを少量含む、炭混じり少く)。)
- 2 明褐色土+灰褐色粘質土の混じり土 (やや固い。)
- 3 明灰褐色土+灰褐色粘質土の混じり土 (少量に炭+灰褐色が混入。)
- 4 灰褐色粘質土 (褐色粘土をやや多く含む、非常に固くしまる。)
- 5 灰褐色粘質土+黄褐色粘土土の混じり土 (非常に固くしまる。)

第43図 C区1~4号土坑遺構実測図 (1/40)

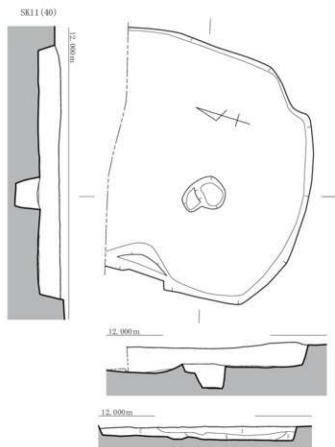


- SK10
- 1 焼灰褐色土（黄褐色地山アサキを多く含む、やや固くしまる、粘質弱。）
 - 2 灰褐色土（黄褐色地山アサキを少量含む。）
 - 3 灰褐色土＋黄褐色土の混じり（やや固くしまる、砂質土。）
 - 4 焼灰黄褐色土（黄褐色地山土をアサキ程にやや多く含む、やや砂質。）
 - 5 軽黄褐色土（やや砂質土、固くしまる。）
 - 6 軽黄褐色砂質土（地山土に近い。）
 - 7 灰黄褐色土（灰褐色土少強い、砂質土混じり、しまる。）
 - 8 黄褐色粘質土（しまる、灰褐色粘質土をやや少量含む。）
 - 9 黄褐色粘質土（8層土とはほぼ同じ、灰褐色土をわずかに含む。）

- SK09
- 1 灰褐色土（黄褐色アサキを少量含む、粘質なし、しまりなし。）
 - 2 軽灰褐色ブロック＋黄褐色地山ブロックの混じり土（軽灰褐色土が多い、粘質弱、しまり弱。）
 - 3 黄褐色地山ブロック＋軽灰褐色ブロック＋灰褐色地山ブロックの混じり
 - 4 焼灰褐色土（灰褐色地山、黄褐色地山をやや多く含む、又、灰化物を少量含む、動物物入層。）
 - 5 灰褐色土（軽灰褐色アサキ土を少量含む。）



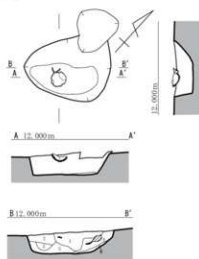
第44図 C区5・7～10号土坑遺構実測図(1/40)



- SK11
- 1 明灰褐色土 (自然砂子を中々多く含む、砂質固じり、やや粘質、固くしめる。)
 - 2 黄褐色砂質土 (砂質は粗く、固くしめる。)
 - 3 黄褐色砂質土 (砂質は粗く、固くしめる。)
 - 4 黄褐色砂質土 (土質がやや多量混じる。)



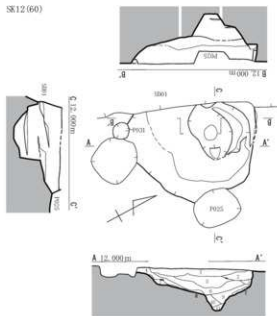
SK14 (40)



SK14

- 1 明灰褐色土 (自然砂子を非常に多く含む、やや固くしめるが柔らかい。)
- 2 黄褐色砂質土 (明灰土に7割ほど少量含む、やや粘質、非常に固くしめる。)
- 3 黄褐色砂質土 (明灰土に7割ほど少量含む、やや粘質、非常に固くしめる。)
- 4 明灰褐色土 (砂質固じり、土質、小石を少量含む、やや固くしめる。)
- 5 黄褐色土 (砂質固じり、明灰色7割ほど少量含む、土質細くを微塵に含む、非常に固くしめる。)
- 6 黄褐色砂質土 (粘土の割合が多量含む、やや固くしめる。)

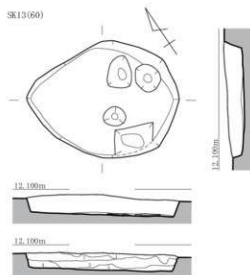
SK12 (60)



SK13

- 1 明灰褐色土 (黄褐色地山7割、灰化物をやや多く含む、やや固くしめる、粘質あり。)
- 2 明灰褐色土 (土質より明灰が強い、土層崩れ・黄褐色地山7割を微塵に含む、やや固くしめる、粘質あり。)
- 3 明灰褐色土 (土質とはほぼ同じ、7割土は含まない、土層を微塵に含む、粘質あり。)
- 4 黄褐色砂質土 (黄褐色砂質地山を粘土状に非常に多く含む、やや固くしめる、粘質あり。)
- 5 黄褐色砂質土+黄褐色の泥り土 (泥れこみ)
- 6 明灰褐色土 (土質とはほぼ同じ、7割土は含まない、砂質が微塵だる。)
- 7 黄褐色砂質土 (黄褐色砂質地山を固くしめる、泥れこみ)
- 8 黄褐色砂質土 (黄褐色砂質地山を少量含む、しまりなし、泥れこみ)
- 9 明灰褐色土 (土質に近い、微塵が強い、粘質あり、上部の崩れを微塵に含む。)
- 10 明灰褐色土 (砂質固じり、黄褐色地山を少量含む。)
- 11 透明黄褐色砂質土 (しまりなし、泥れこみ。)

SK13 (60)



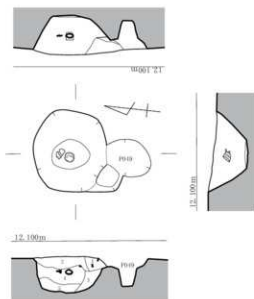
SK13

- 1 明灰褐色土 (やや固くしめる、粘質あり。)
- 2 黄褐色砂質土 (明灰褐色土7割程度に少量含む、非常に固くしめる。)
- 3 黄褐色砂質土 (1~2cmを十割にやや多く含む非常に強い、土質の7割を少量含む。)
- 4 黄褐色砂質土 (土質に近い、土質を少量含む、やや固くしめる。)
- 5 明灰褐色砂質土 (土質を少量含む、しまりなし。)



第45図 C区11~14土坑遺構実測図 (11,14は1/40、他は1/60)

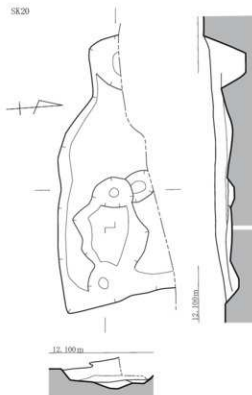
SK16



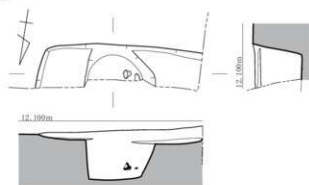
SK16

- 1 黒褐色土（やや粘質、土層を少量含む。）
- 2 灰褐色土（粘質に乏、全く含まず。）
- 3 黒く硬く固い粘土（黒褐色地層より少量含む。）
- 4 暗灰褐色土（黄褐色砂質土を和質に多量に含む、土層を乏む。）
- 5 暗黄褐色砂質土（粘土をまたりに多量に含む、しる。砂質は約5割。）

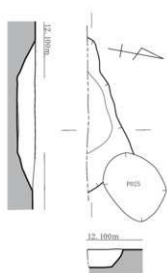
SK20



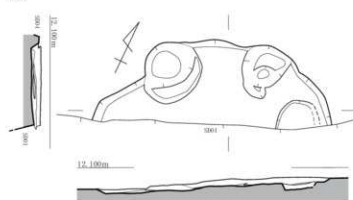
SK17



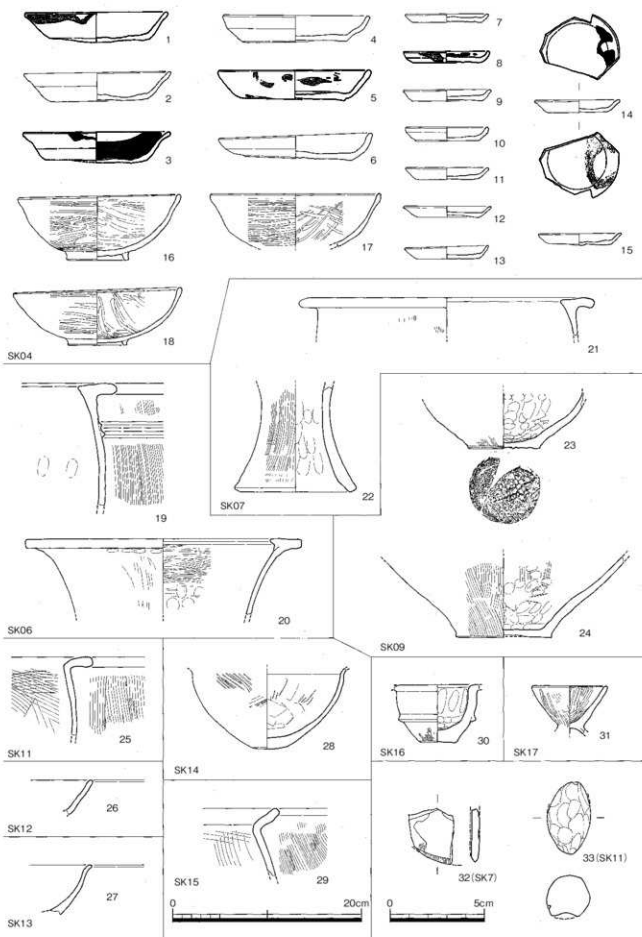
SK21



SK19



第46図 C区16・17・19～21号土坑遺構実測図(1/40)



第47图 C区土坑出土遗物实测图 (1/4、1/2[30,31])

3. 周溝状遺構 (SV)

1号周溝状遺構 (第48図/図版-)

調査区東端で検出した。ほぼ南北に縦走り、南北ともに調査区外へと広がるため全容は不明である。断面形状は逆台形である。

出土遺物 (第49図/図版-)

出土遺物は混ざりと考えられる弥生中期前葉集破片が出土している。1は土師器の環で、7世紀頃に比定される。

C区		1号溝				第48図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(28.40)	0.90~1.00	0.48	逆台形状	N-59°-E	後	SD03、SC06・09・、SK12その他多数	
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	多期にわたる多くの遺物が出土した。2は最下層からの出土である。17世紀後半の所産である。				出土遺物なし				
概要	調査区を東西方向へ横断する溝である。検出標高は11.900mである。								

C区		2号溝				第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(12.8)	0.70~0.84	0.22~0.42	逆台形状	N-66°-E	後	SD05、SC06・09・20・16その他柱穴	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	SD01同様。多期にわたる多くの遺物が出土した。時期はSD01と同時期頃埋没したと考える。				出土遺物なし				
概要	SD01に並行する溝である。SD01に比べ浅い。検出標高は11.800m~12.000mである。								

C区		3号溝				第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(12.80)	0.24~0.40	0.20	逆台形状	N-27°-W	後	SC04・05・09、SD09・12その他多数	
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	多期にわたる多くの土器片が出土している。植州窯系青磁皿?破片より11世紀~12世紀代の溝であろう。				出土遺物なし				
概要	南北に縦断する溝である。幅も狭く浅い。検出標高は12.000mである。								

C区		4号溝				第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		14.28	0.48~0.54	0.52	逆台形状	N-76°-E	後	SC8・12その他多数	
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	土師器底部へ切りの皿や瓦質土器、青磁碗破片などが出土している。12世紀ごろ埋没か?				出土遺物なし				
概要	SD01、02と同じく東西方向に横断する溝である。幅も狭く西へ向かい浅くなる。検出標高は12.000mである。								

C区		5号溝				第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(4.40)	1.20	0.38	不整形な逆台形	N-12°-W	後	SD02、その他柱穴	
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	弥生土器埴や鉢が出土している。時期は弥生中期末以降に埋没したと考えられる。				出土遺物なし				
概要	南北方向に縦断する溝。上層を表土剥ぎ及び検出時に下げすぎたため全容は不明である。西から北にかけて階段状の段を持ち、他の溝と違い断面が階段状である。他の溝と性格が違ふと考えられる。検出標高は11.900m前後である。								

C区		6号溝				第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.04)	0.50~1.34	0.17	不整形な逆台形状	N-5°-W	後	SK20、SC14	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]				
	遺物出土量は少なく、弥生土器片や丹塗土器片などが出土している。時期は弥生中期末葉以降であろう。				出土遺物なし				
概要	南北方向に縦断する溝である。部分的に溝幅が狭くなる箇所が確認できる。検出標高は12.000m前後である。								

C区		7号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	P075	
	(4.40)	1.54	0.40	お椀形状	N-9.5°-E	後	SK13	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	出土遺物は弥生土器片、丹塗土器片などがある。弥生終末〜古墳初期の埋没か?				出土遺物なし			
概要	南北方向の溝である。SK13に切られ、北側は調査区外へと広がるため全容は不明である。							

C区		8号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD03, P056	
	(1.24)	0.54	0.07	逆台形状	N-45.5°-E	後	SD09その他の遺構	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	遺物の出土は微量でいずれも図示するに至らなかった。時期は弥生中期後葉以降であろう。				出土遺物なし			
概要	南北方向の溝である。東側は調査区外へのび、西側はSD03に切られるため全容は不明であるが、溝の幅も一定ではないため、SD01〜04とは性格の違う溝だと考えられる。							

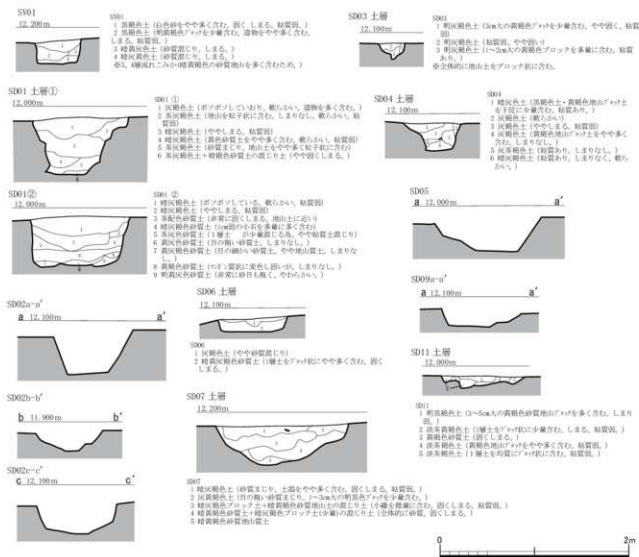
C区		9号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD03・08	
	(2.52)	0.90	0.18	不整形な逆台形状	N-61°-W	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	弥生土器の鉢や、外面に暗文の残る鉢形高環が出土。弥生中期末〜後期前葉の埋没か?				出土遺物なし			
概要	溝の底の形態は他のものとは違い、??状の段を持ちながら南へ低くなる。SD01〜04とは性格の違う溝だと考える。							

C区		10号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先		
	1.54	0.22	0.12	逆台形状	N-32.5°-W	後	SK15	
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	外面が9材料を??目で消している弥生土器片が出土。図示不可能であったが、時期は弥生終末以降であろう。				出土遺物なし			
概要	土層を掘削時に掘り過ぎたため、溝の一部分のみが検出できた。検出標高1.80m前後である。南北方向に縦断する溝であったと考えられる。おそらく、SD03に並行する溝であろう。性格は不明である。							

C区		11号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	P032・035・047, SK14	
	(2.08)	0.90	0.08	ゆるい逆台形状	N-38.5°-E	後		
出土遺物	土器[第一図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	微量だが弥生土器片が出土している。時期は弥生中期後葉以降であろう。				出土遺物なし			
概要	非常に浅い溝である。南側はSK14に切られ、北は調査区外へと広がるため、詳細は不明である。							

C区		12号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SD01・03その他柱穴	
	(2.40)	1.16	0.22	逆台形状	N-3.5°-E	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	支脚や器台、甕など多くの遺物が出土している。時期は弥生中期末〜後期中葉の埋没であろう。				出土遺物なし			
概要	北側は調査区外へと広がり、南はSD01に切られるため全容は不明な点が多い。検出標高1.900m前後である							

C区		13号溝			第48図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先	SC09	
	(1.70)	(0.50)	0.03	—	N-60.5°-E	後		
出土遺物	土器[第49図/図版-]				その他の遺物[第一図/図版-]			
	弥生土器の高環、甕や支脚などが出土している。時期は中期後葉と比定される。				出土遺物なし			
概要	SC09に切られること、東側を攪乱により崩壊されていることにより、全容は不明である。							



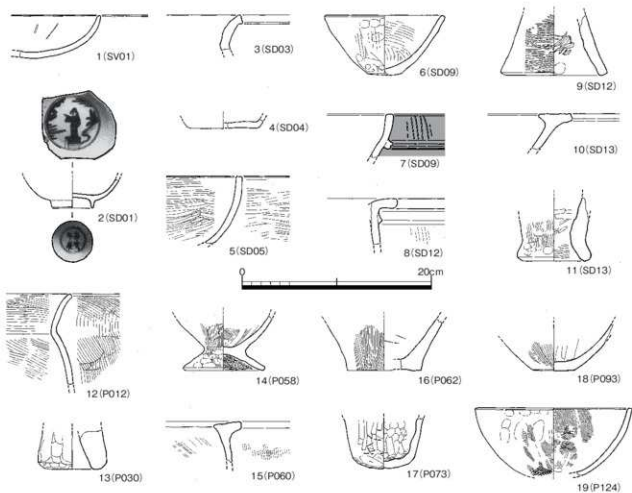
第48図 C区1号周溝状遺構、1~13号溝遺構実測図(1/40)

5. ピット (SP) (付図/図版一)

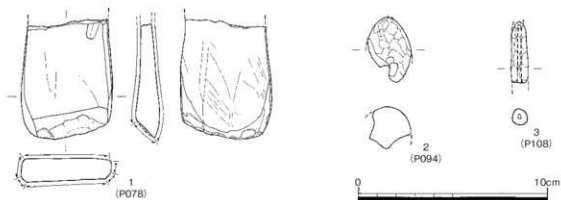
C区で検出した柱穴は約140基でそのうち約120基より遺物が出土している。そのうち8基が図示可能であったためここで報告しておく。

出土遺物 (第49図/図版一)

いずれも破片であったが、図示可能なものを図化した。時期は、弥生中期中ごろと、終末期に比定されよう。



第49図 C区1号周溝状遺構、1~13号溝、ピット出土遺物実測図(1/4)



第50図 C区ピット出土石製品、土製品実測図(1/2)

第7章 D区の遺構と遺物

D区で検出した遺構は井戸17基、土坑21基、溝13条、その他ピット約40基である。以下、表形式で報告する。表についての留意点は第3章2を参照。

1、井戸（SE）

D区							1号井戸		第51図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先					
	楕円	円	1.04	1.30	1.46	N-34°-W	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版-〕						その他の遺物〔第1図/図版-〕					
	土師器小皿・坏、青磁碗などが出土している。13世紀前半ごろの所産と考えられる。						出土遺物なし					
概要	北は調査区外へと広がる。南から中央の最深部まで2段階の行状の段を持つ。下から2段目の行は、壁面が緩く内湾して立ち上がる。また、南東部分から最深部までも行状の段をもつ。											

D区							2号井戸		第51図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先					
	円	円	0.90	(0.06)	0.84	N-6.5°-E	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版-〕						その他の遺物〔第5図/図版-〕					
	土師器の小皿・坏、青磁碗などが出土している。12世紀前半～後半に比定される。						1は砥石である。ほぼ全面を砥面として使用している。					
概要	西側が調査区外へと広がるため、全容が不明な点が多い。中央部分が最深部で、行状の段を持つ。この行状の段から、壁面が内湾して立ち上がる。											

D区							3号井戸		第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先					
	円	楕円	1.26	1.26	1.12	N-22.5°-W	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版-〕						その他の遺物〔第1図/図版-〕					
	12世紀末～13世紀初頭の所産と考えられる。土師器小皿・坏、中世須恵器鉢が出土している。						出土遺物なし					
概要	東側上層を横断により削平される。一段の行状の段を持つ。											

D区							4号井戸		第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD04				
	楕円	楕円	1.06	1.06	1.00	N-10°-E	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版6〕						その他の遺物〔第1図/図版-〕					
	土師器坏、青磁碗・皿が出土している。12世紀中ごろ～13世紀中ごろであろう。											
概要	南側をSD04に切られる。東側に行状の段を持ち、中央部分が最深部となる。最深部は南へと低くなる。壁面より立ち上がりは、緩やかである。											

D区							5号井戸		第51図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先					
	不整形楕円	楕円	1.46	1.32	0.58	N-0°	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版-〕						その他の遺物〔第1図/図版-〕					
	青白磁碗の破片のほか、瓦質の播磨が出土している。						買土遺物なし					
概要	西側上層をSD04に切られる。中央が最深部となる。最深部から緩やかに立ち上がり、一段の段を持つ。そこから内湾しながら立ち上がる。											

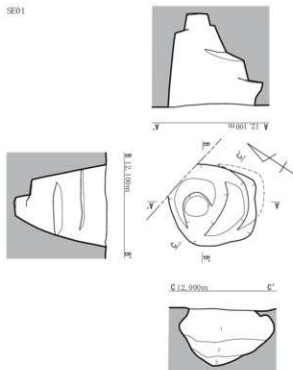
2、土坑（SK）

D区							1号土坑		第52図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P016・017				
	楕円	楕円	3.14	(1.66)	4.2	N-79°-W	後	SK06				
出土遺物	土器〔第54図/図版-〕						その他の遺物〔第1図/図版-〕					
	多くの土器が出土している。時期は、弥生中期後葉までであろう。						出土遺物なし					
概要	北側が調査区外へと広がるため全容は不明である。東西両側に行状の段が確認できる。											

D区							2号土坑		第52図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先					
	瓢箪状	円	4.24	2.44	1.04	N-29.5°-W	後					
出土遺物	土器〔第53図/図版7〕						その他の遺物〔第35図/図版-〕					
	土師器小皿や瓦器碗、青白磁など多くの遺物が出土している。時期は、12世紀前半～13世紀初めであろう。						2は石錐である。口縁部に放射状の工具痕が残る。3は鉄製鎌である。					
概要	上層はSD04に切られる。土層観察により、掘り返しを確認できた。南側は掘り返しである。最深部より緩やかに立ち上がり、行状の段が確認できる。北側の底面は緩やかに立ち上がる。											

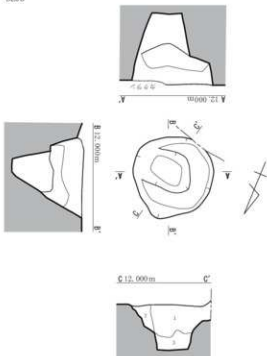
D区		3号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	長楕円	長楕円	3.64	1.00	0.58	N-42°-W	後	P023
出土	土器[第54図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
概要	弥生中期末～後期初頭に比定される土器が出土している。出土遺物なし 復乱により前半部面があるため、詳細不明な点がある。最深部は南側で80cm前後の土坑状に掘り込まれ、東から西へと下がる。最深部から北へ一段上がり、長軸1.36m、短軸0.96mの土坑状の浅い掘り込みがある。性格の不明で							
D区		4号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SD01
	長楕円?	長楕円?	(27.6)	(14.2)	0.9	N-10.5°-W	後	
出土	土器[第54図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	出土遺物は少量である。時期は弥生中期中頃に比定されよう。							出土遺物なし
概要	北側は現代の井戸に切られ、東側はSD01に切られるため、遺構の全体形は不明である。							
D区		5号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK06、P020
	楕円	楕円	0.86	(0.76)	0.14	N-79°-W	後	
出土	土器[第一図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	出土遺物なし							出土遺物なし
概要	他の遺構に切られ、全容は不明である。底面は、西から東へ下がる。							
D区		6号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	SK01、P017
	楕円?	楕円	1.20	(0.76)	0.15	N-79°-W	後	SK05
出土	土器[第54図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	時期は弥生中期前半～中期後半であろう。							出土遺物なし
概要	平面形態は楕円だが南西隅がやや方形状である。北側をSK01に切られる為全容は不明である。底面は南から北へ下がる。							
D区		7号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	不整形楕円	円形	1.26	0.80	0.62	N-73°-E	後	
出土	土器[第54図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	内面に嵌め込まないけの土師器の小甕である。時期は5世紀後半以降であろう。							出土遺物なし
概要	最深部は西側である。中央が一番低く鉢状で、東へ緩やかに立ち上り、V字状の段を持つ。性格は不明である。							
D区		8号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	P028
	長楕円	長楕円	4.68	(1.18)	0.30	N-81°-W	後	P027
出土	土器[第54図/図版6]							その他の遺物[第55図/図版8]
遺物	土師器の丸底杯や有縁の高杯が出土している。時期は古墳中期中～後期初頭であろう。							4は土製の模造鏡である。
概要	南側は調査区外へと広がるため詳細不明である。底面は中央部分がいちばん低くゆるい鉢形状である。性格不明な土坑である。							
D区		9号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	円形	円形	0.82	0.76	0.84	N-10.5°-E	後	P029
出土	土器[第一図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	多くの遺物を出土しているが、図化するに至らなかった。時期は2世紀中ごろの遺構であろう。							出土遺物なし
概要	底面からほぼ垂直に壁面が立ちあがる。また、中央部分がいちばん低い。							
D区		10号土坑 第52図/図版-					主な遺構との先後関係	
構造	平面形態	底面形態	長軸	短軸	深さ	長軸方位	先	
	楕円?	楕円?	1.22	(0.80)	0.40	N-9.5°-W	後	
出土	土器[第一図/図版-]							その他の遺物[第一図/図版-]
遺物	土器片が出土しているが、細片である。時期不明古代か? 出土遺物なし							出土遺物なし
概要	上層を復乱によって削平され、東側はSD05により切られ詳細は不明である。底面は北から南へ下がる。							

SE01



- SE01
- 1 黒褐色土(粘性高くしまる。黄褐色土粒約層に散じる。土器片含む。)
 - 2 黒褐色土(粘性高くしまる。黄褐色土質?が少量に散じる。土器片含む。)
 - 3 灰黄褐色土(シルト質。黄褐色粘質土混じる。)

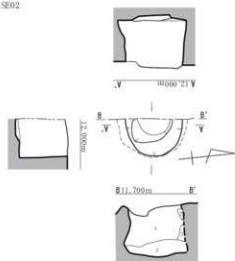
SE03



- SE03
- 1 黒色土(よくしまる。黄褐色土?が散じる。)
 - 2 黄褐色土(しまる。黄褐色土混じる。)順次黄褐色土
 - 3 黄褐色土(ややゆるい)。黄褐色土?が少量に散じる。)

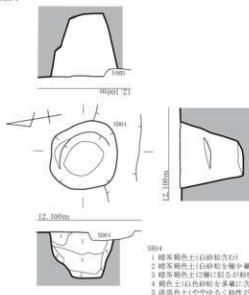


SE02



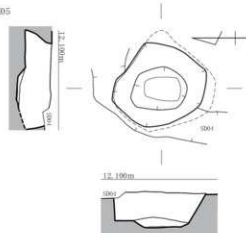
- SE02
- 1 黒色土(粘質でよくしまる。灰黄色砂質土?と黄褐色土?が少量に散じる。)
 - 2 黄褐色土(粘質でよくしまる。)順次黄褐色土?
 - 3 黄褐色土(粘質でよくしまる。黄褐色土同灰黄色砂質土と黒色土が少量に散じる。)

SE04



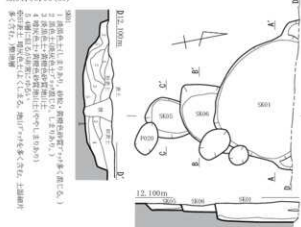
- SE04
- 1 暗黄褐色土(白砂粒含む)
 - 2 暗黄褐色土(白砂粒を少量含む)
 - 3 暗黄褐色土(2層に散る粘性强い)
 - 4 黄褐色土(白砂粒を少量含む)
 - 5 黄褐色土(ややゆるく粘性が強い)

SE05



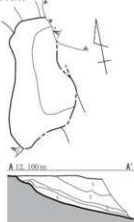
第51図 D区1～5号井戸遺構実測図(1/60)

SK01, 05, 06 (80)



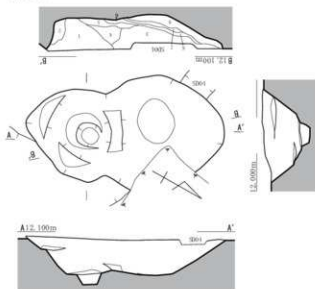
1 黄褐色土(ややしまりあり、砂多、砂粒多く含む。土器片事雑に含む。)
 2 黄褐色土(砂多砂粒粗)
 3 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)
 4 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)
 5 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)
 6 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)
 7 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)
 8 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)

SK04 (80)



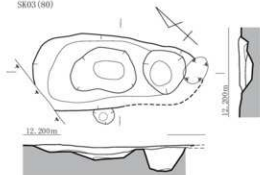
SK04
 1 黄褐色土(ややしまりあり、白砂粒含む。)
 2 黄褐色土(しまりあり、黄褐色・明褐色土)が多量に含む。)
 3 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多多く含む。)
 4 黄褐色土(粘性强くゆるい。砂多)

SK02 (80)

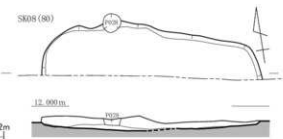


SK02
 1 黄褐色土(ややしまりあり、黄褐色土粒、白砂粒多く含む。土器片事雑に含む。)
 2 黄褐色土(砂多砂粒粗)
 3 黄褐色土(粘強にゆるい粘性强くゆるい。黄褐色粘質土)が層に含む。)
 4 黄褐色粘質土(粘強)
 5 黄褐色粘質土(粘強ゆるい)
 6 黄褐色粘質土(粘強)
 7 黄褐色粘質土(粘強ゆるい。白砂、白砂粒含む。)
 8 黄褐色粘質土(粘強ゆるい。白砂、黄砂粒多く含む。)

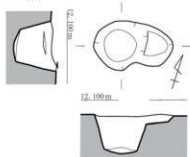
SK03 (80)



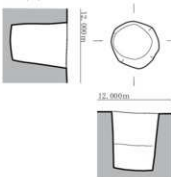
SK08 (80)



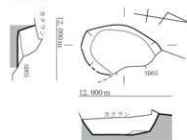
SK07 (60)



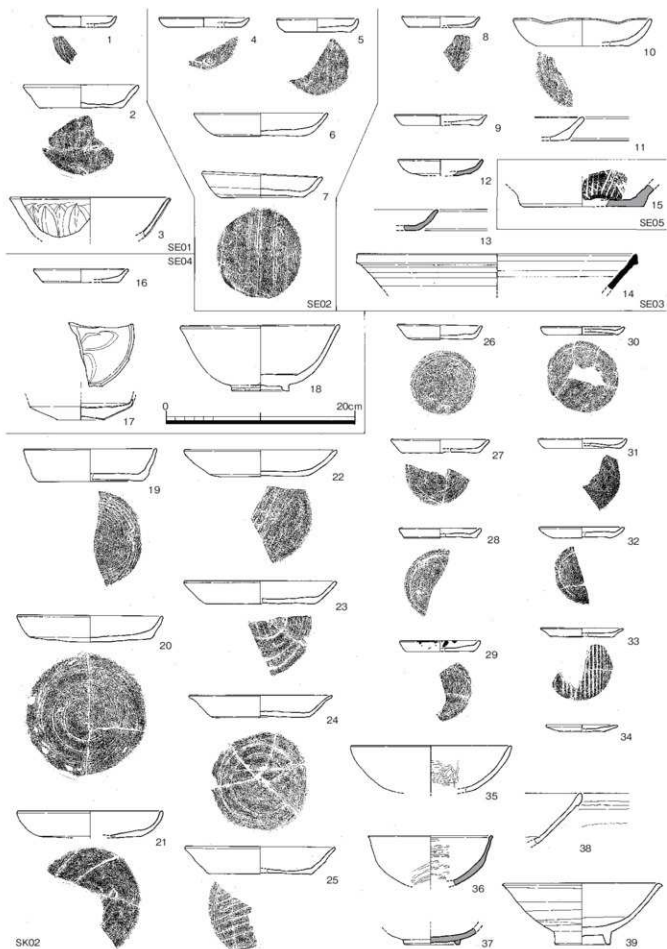
SK09 (60)



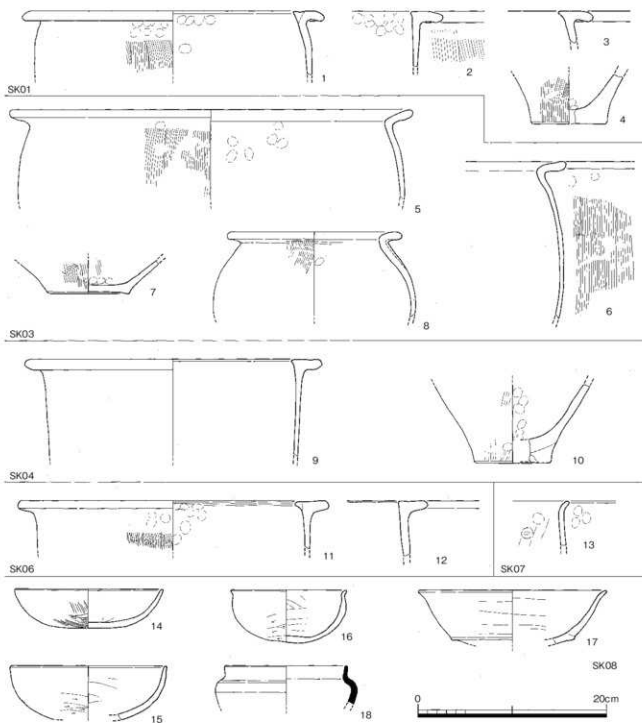
SK10 (60)



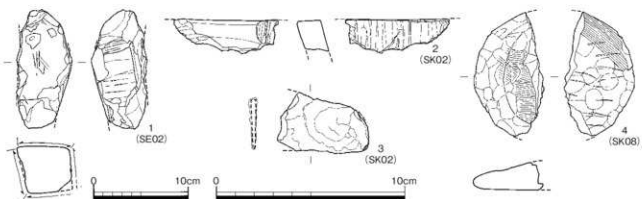
第52図 D区1~10号土坑遺構実測図(7,9,10は1/60、他は1/80)



第 53 图 D区 1~5号井戸、2号土坑出土器物实测图 (1/4)



第54图 D区1·3·4·6~8号土坑出土物实测图(1/4)



第55图 D区井戸、土坑出土石製品、土製品、金属製品实测图(1/2, 1/4[1,2])

D区		1号溝				第56図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.90)	2.80	1.09	ラッパ状	N-11°W	後	SK04	
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第58図/図版-]			
	多期にわたる多くの遺物が出土した。陶磁器片より、17世紀後半以降の埋没と考えられる。					は石罫である。2は土師である。外面ほぼ中央に沈線が現れる。			
概要	調査区を縦断する溝である。AKS002の続きの溝であろう。多くの遺物が出土している。								

D区		2号溝				第56図/図版3		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.48)	4.00	0.70	ラッパ状	N-10.1°E	後	SD03	
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]			
	15世紀中ごろ以降の土師質の縄である。					出土遺物なし			
概要	南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。断面は、中央部分がいちばん狭くやや「V」字形風である。								

D区		3号溝				第56図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.82)	0.88	0.44	逆台形	N-8.5°W	後	SD02	
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]			
	青白磁の破片や、土師器の小皿が出土している。時期は13世紀中ごろ～14世紀初めであろう。					出土遺物なし			
概要	ほぼ南北に縦断する溝である。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。								

D区		4号溝				付図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		48.42	0.54~0.76	0.18	逆台形	N-79.5°E	後	SK02、SE04、SE05	
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]			
	17世紀末～18世紀中ごろの所産と考えられる染付の第Ⅰ口が出土している。					出土遺物なし			
概要	方形の南溝状の遺構で、北半分を検出した。地図上で墓地の区画とほぼ一致するため、墓地の区画溝であると考えられる。								

D区		5号溝				付図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(49.0)	1.02~1.44	0.36~0.44	逆台形	N-2°W	後		
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第一図/図版-]			
	土師器の鍋破片や、染付碗が出土している。17世紀中ごろ埋没したと考えられる。					出土遺物なし			
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、北から南へと深くなっていく。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。								

D区		6号溝				付図/図版-		主な遺構との先後関係	
構造	長軸	幅	深さ	断面形態	長軸方位	先			
		(5.12)	1.18~2.16	0.53~0.25	鉢状	N-3°W	後	SK10	
出土遺物	土器[第57図/図版-]					その他の遺物[第58図/図版-]			
	多期にわたる多くの遺物が出土している。17世紀前半以降には埋没したと考えられる。					上層で砥石と不明金属製品が出土した。不明金属製品は斧の可能性がある。3は土師で下層よりの出土である。			
概要	ほぼ南北に縦断する溝で、南から北へと深くなる。南北ともに調査区外へと広がるため、詳細は不明である。								

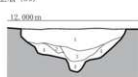
SD01 土層 (60)



SD01-5土

- 1 褐色土(砂粒多く含む、よくしまる。土層片多量に含む。)
- 2 褐色土(やや中砂質あり、ややしまる。土層片多量に含む。)
- 3 褐色土(ゆるい、砂粒多く含む。土層片多量に含む。)
- 4 褐色土(白礫に混るが、3層より粗山崩れの砂混じる。土層片中量含む。)
- 5 褐色土(表層褐色砂質粘土)

SD02 土層 (60)

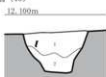


SD02-5土

- 1 褐色土(砂粒混じるが粗粒あり、土層片多量に含む。)
- 2 褐色土(砂粒混じり、ゆるい。)
- 3 褐色土(白礫に混るが、粗粒あり。)
- 4 褐色土(灰黄褐色砂質粘土(ゆるい))



SD03 土層 (40)

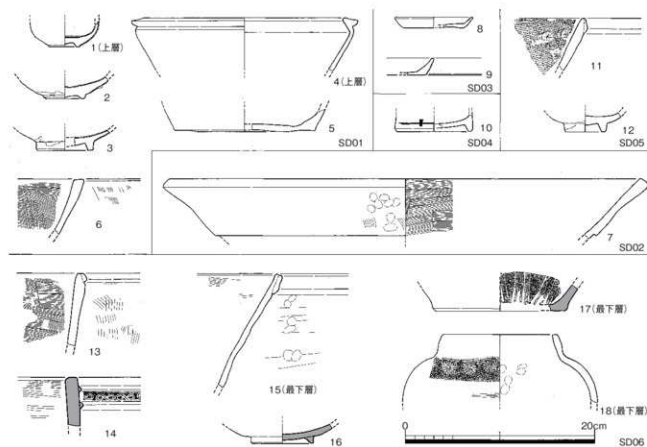


SD03-5土

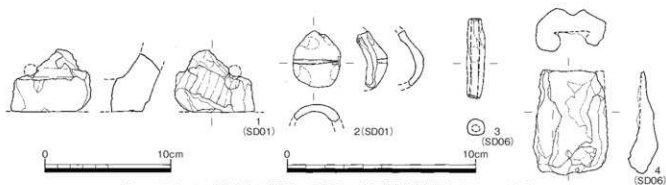
- 1 褐色土(白色砂粒を多く含む、よくしまる。土層片含む。)
- 2 褐色土+黄褐色砂質粘土(ゆるい)



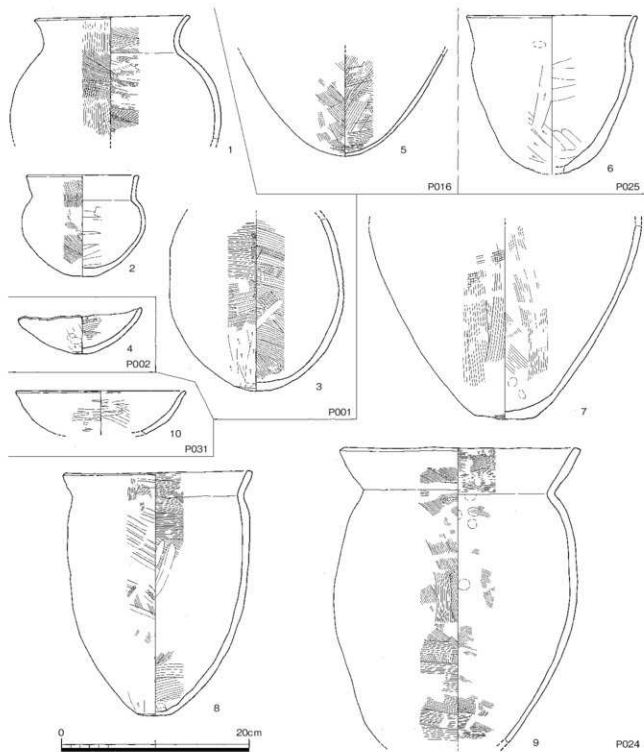
第56図 D区1~3号溝遺構実測図 (1.2は1/60, 3は1/40)



第57図 D区1~6号溝出土遺物実測図 (1/4)



第 5 8 図 D区溝出土石製品、土製品、金属製品実測図 (1/2、1/3[1])



第 5 9 図 D区ビット出土遺物実測図 (1/4)

第8章 調査の成果

1. まとめ

小坂井屋敷遺跡は、これまでの調査により弥生時代中期後半、弥生時代後期後半～古墳時代初期の住居跡や中世の井戸状遺構や区画溝と思われる大溝が多く確認されている。本調査は5次調査にあたるが、他調査と同様の時期の遺構が数多く確認された。

小坂井屋敷遺跡5次調査で検出した遺構は以下とおりである。

小児棺1基（B区）、祭祀土坑5基（B区）、住居跡29軒（A区11軒、C区18軒）、土坑41基（A区3基、B区10基、C区18基、D区10基）、井戸5基（D区）、溝28条（A区3条、B区6条、C区13条、D区6条）その他ピット群が260基である。

まず、B区であるが、平成9年に調査された小坂井屋敷遺跡の1次調査地の南約100m地点に位置するが、当初、1次調査と同時期の遺構を予想していたが、検出したのは弥生時代中期前葉～中葉の小児棺1基と、祭祀土坑5基である。小坂井屋敷遺跡内においても、当該時期の遺構はあまり確認されおらず、周辺遺跡の大板井遺跡や、小坂井ぐうてんさん遺跡との関連も注目される。また、今回報告はできなかったが、B区1号祭祀土坑より出土した、黒曜石を産地同定に出しており小坂井地区の弥生時代遺跡群の様相もあきらかになってくるであろう。（詳細は、今年度報告の三沢遺跡に掲載参照された。）

A区、C区であるが、ほぼ同時期の住居群が検出されている。特筆すべき点は、A区の2号住居跡出土の鉢である。（第5図の10）である。外面に格子目のたたきを施す。当該地域周辺では見られない様相の鉢である。大陸からの影響を受けている可能性がある。

C区であるが、表土剥ぎ時に上層を剥ぎすぎてしまい、詳細な住居の記録は取れなかったが、12号住居において大量の土器が出土している。遺物はいずれも貼床直上のベット状遺構から、床面にかけての出土である。住居廃棄時に一括して住居内に廃棄した可能性がある。

D区であるが、他区と違い、住居跡は出土せず、土坑や井戸が出土している。特筆すべき点は4号溝であるが調査開始前に字図で墓地（近世）を確認しており、現地においても、まだ現在も使用されている墓が存在していた。表土剥ぎ後、検出した区画と墓地の区画が一致することから、4号溝は近世の墓域の区画溝であることが判明した。

溝であるが、検出した溝は28条にも及ぶ。そのうち、A区2号溝とD区1号溝は同一の大溝であることが分かった。時期は17世紀後半以降の埋没と考えられる。この溝は今年度調査の近隣調査区からも検出されている。この『大溝』は、小坂井屋敷遺跡3次調査からも区画と考えられる溝が発見されていることから、区画溝と考えている。また、B区1号溝とC区1号溝も同一の溝であろう。時期も先に報告した大溝同様17世紀後半以降の埋没である。同時期の区画溝と考えられる溝が何条も存在していた可能性がある。今後の調査成果で明らかになってくるであろう。

以上、小坂井屋敷遺跡5の概略をまとめたが、A区、C区において詳細な記録を取ることができず、各遺構について十分な評価を行うことができなかったことを、ここで深く陳謝する。

小坂井尾敷遺跡 5 出土遺物観察表
 < A区出土品 >

出土品番号	国産品番号	図録	寸法		重量	保存	色調	胎土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	備考
			口径	高さ												
3001	5-1	鉢	14.2	-	11.3	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-2	小片	-	-	12.0	-	赤褐色	赤土	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり	
	5-3	鉢	14.7	-	11.1	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-4	4 鉢	18.9	-	19.2	約3.0g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-5	4 鉢	17.4	-	15.4	約1.7g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3002	5-6	4 鉢	13.2	-	12.1	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-7	4 鉢	14.6	-	12.1	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-8	4 鉢	18.9	-	18.6	約3.0g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-9	4 鉢	15.3	-	15.9	約2.0g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	5-10	4 鉢	14.4	-	12.7	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3003	11-1	鉢	-	-	13.5	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-2	高杯	-	腹径12.0	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-3	高杯	-	径12.0	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3004	11-4	高杯	-	径12.0	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-5	高杯	-	径12.0	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-6	高杯	-	径12.0	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3005	11-7	4 鉢	13.0	4.8	13.3	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-8	4 鉢	13.0	4.8	13.3	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-9	4 高脚碗	12.8	8.0	12.8	約1.5g	褐色	灰土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3006	11-10	高杯	-	-	13.1	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-11	鉢	-	-	13.3	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-12	土師器	114.0	110.0	1.9	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3007	11-13	高脚碗	-	-	12.0	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-14	瓦葺	114.0	112.0	2.4	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	11-15	瓦葺	-	-	12.5	約1.5g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり

< B区出土品 >

出土品番号	国産品番号	図録	寸法		重量	保存	色調	胎土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	備考
			口径	高さ												
3008	15-1	土師	126.0	-	約1.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-2	4 下壺	35.7	9.5	36.8	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-3	鉢	11.0	-	11.1	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-4	鉢	128.7	-	110.5	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-5	4 鉢	30.8	-	31.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-6	4 鉢	29.7	9.9	31.2	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-7	4 鉢	31.8	2.5	32.4	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-8	4 鉢	31.9	2.7	36.6	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-9	鉢	122.0	-	116.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	15-10	鉢	31.95	-	31.3	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
3009	16-9	4 鉢	138.0	-	136.1	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-1	鉢	-	径10.0	11.7	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-2	鉢	-	径10.0	11.2	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-3	鉢	-	径10.0	9.5	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-4	4 高脚碗	14.7	4.5	14.7	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-5	4 高脚碗	16.0	5.5	16.1	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-6	5 高脚碗	16.8	-	151.0	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
	17-7	鉢	-	径10.0	11.1	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり
17-8	鉢	-	径10.0	11.1	約1.0g	赤褐色	赤土	口縁	内・内底	底面	天・天笠部	頸部	坪・坪部	台・台高	内面に褐色土質の付着あり	

品名 数量	製造 年度	製造 番号	品種	品質			残存	色調	加工	製造	成形・調整方法	備考	
				直径	壁厚	高さ							
9001	29-7	鋼	-	-	116.33	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・21.0～21.0 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017			
	29-8	鋼	-	07.40	0.73	底底	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm 長さ1	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に錆。底面外周中に錆の跡に注意。	
	29-9	支那鋼	-	07.71	0.71	底底	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鋼製に加工調整済み		全体の調整がうまく調整済み	
9002	29-10	鋼	027.40	-	12.40	以線	外・褐色～21.0～褐色 内・21.0～21.0 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		鋼製に加工済み	
	29-11	鋼	-	16.20	14.41	底・粗底	外・褐色～21.0～褐色 内・21.0～21.0 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		鋼製に加工済み	
	29-12	鋼	-	-	12.40	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		台骨製造に使用済みあり	
9003	29-13	鋼	-	-	17.31	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		台骨製造に加工済み	
	29-14	鋼	022.80	-	06.40	以線	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鋼製に加工済み		台骨製造に加工済み	
	29-15	高純鉄	-	-	12.40	中径	外・赤色～褐色 内・褐色 黒色	外径16mm	良好	鋼11017 鋼11017 鋼11017		高純鉄加工済み。硬さ調整済み。	
9004	29-16	鋼	-	-	11.30	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017			
	29-17	鋼	-	-	12.20	中径	外・赤褐色 内・赤褐色 黒色	外径27×2mm 長さ1	良好	鉄11017 鋼11017			
	29-18	鋼	-	-	12.20	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		底面に加工済みの痕跡	
9011	29-19	鋼	-	-	11.71	中径	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017			
	29-20	高純鉄	-	-	12.40	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017		内面に加工済みあり	
	29-21	鋼	-	-	12.20	中径	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～21.0～褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		内面に調整されている。	
9001	30-1	鋼製 鉄	-	高さ 10.40	13.20	底1以上	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		内面に調整されている。	
	30-2	鋼製 鉄	-	高さ 11.10	14.40	底1以上	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に調整されている。	
	30-3	鋼製 鉄	-	-	17.40	底底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に調整されている。	
9003	30-4	鋼製 鉄	-	高さ 14.10	13.20	底底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に調整されている。	
	30-5	鋼	-	-	11.40	中径	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017		全体の調整に調整されている。	
	30-6	鋼	-	-	17.20	17.20	17.20	外・21.0～褐色～褐色 内・21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
9007	30-7	鋼	-	-	14.20	14.20	14.20	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
	30-8	鋼製 鉄	-	-	13.10	13.10	13.10	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鋼製に加工済み		表面に加工済み。
	30-9	鋼	-	-	14.70	14.70	14.70	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に加工済み。
9002	30-10	鋼	024.70	-	17.10	17.10	17.10	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に加工済み。
	30-11	鋼	025.60	-	14.20	14.20	14.20	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に加工済み。
	30-12	鋼	07.40	-	06.30	07.40	07.40	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径17×2mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面に加工済み。

＜C区出上り品＞

品名 数量	製造 年度	製造 番号	品種	品質			残存	色調	加工	製造	成形・調整方法	備考	
				直径	壁厚	高さ							
9001	30-1	鋼	-	2.8	4.30	底	外・21.0～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-2	鋼	12.4	5.7	4.40	底底	外・21.0～褐色～黒色 内・21.0～褐色～黒色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-3	鋼	-	-	12.40	12.40	12.40	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
9003	30-4	鋼製 鉄	3.7	3.2	2.7	底底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-5	鋼製 鉄	3.6	3.1	2.2	底底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-6	鋼	3.5	3.1	3.4	底・粗底	外・褐色～褐色 内・褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
9004	30-7	鋼	14.40	-	18.4	3/4底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-8	鋼	-	-	13.40	13.40	13.40	外・21.0～褐色 内・21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
	30-9	鋼	19.20	-	26.10	1/2以上	外・21.0～褐色～黒色 内・21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
9002	30-10	鋼	高さ 6.3	-	09.30	中径	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-11	鋼	-	06.40	11.00	1/4底	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-12	鋼	-	17.20	17.40	1/4底	外・21.0～褐色 内・21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
9003	30-13	鋼	24.90	-	25.40	1/4底	外・21.0～褐色～21.0～褐色 内・褐色～黄褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-14	鋼	-	-	15.20	15.20	15.20	外・21.0～褐色 内・21.0～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
	30-15	鋼	-	07.40	11.00	1/4底	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
9004	30-16	鋼	11.30	-	06.40	1/4底	外・褐色 内・褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-17	鋼	-	-	17.20	17.20	17.20	外・褐色～褐色 内・褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
	30-18	鋼	-	-	14.20	14.20	14.20	外・赤褐色～褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み
9002	30-19	鋼	103.50	-	14.20	1/4底	外・褐色～21.0～褐色 内・褐色～褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	
	30-20	鋼	127.40	-	09.10	1/4底	外・赤褐色～黄褐色 内・赤褐色 黒色	外径16mm	良好	鉄11017 鋼11017 鋼11017		表面調整～底面に調整済み	

品目 品名	標準 品名	品類	品質			存在	名称	船主	構造	成積・積積方法	備考
			目録 仕度	目録 仕度	目録 仕度						
K21	39-21	葉	0.25	-	0.30	1.0	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-22	葉	-	-	0.30	小片	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-23	葉	-	-	0.30	小片	赤褐色 内・褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-24	葉	-	-	0.30	小片	赤褐色 内・褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-25	葉	0.01	-	0.20	0.01	赤褐色・灰褐色 内・灰褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
K22	39-26	支脚	-	0.02	0.20	1.0	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-27	支脚	-	0.02	0.20	1.0	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-28	支脚	-	0.02	0.20	1.0	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
K23	39-1	葉	0.4	-	0.20	0.01	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-2	葉	-	6.5	0.01	0.01	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-3	葉	-	0.30	0.10	0.01	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-4	葉	0.01	-	0.4	1/00	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-5	葉	0.4	0.4	0.01	0.01	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-6	葉	-	-	0.30	0.01	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-7	葉	0.01	-	0.01	1/00	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-8	葉	-	-	0.30	1.0	赤褐色 内・褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-9	葉	-	0.20	0.20	1.0	赤江品・赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-10	葉	0.01	7.4	0.01	0.01	赤褐色 内・褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
K24	39-11	支脚	0.01	6.9	0.01	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-12	葉	0.2	-	0.10	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-13	葉	0.2	-	0.2	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-14	葉	0.01	-	0.2	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	39-15	葉	21.6	-	0.17	2.3	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
K25	39-16	葉	-	-	0.2	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-1	葉	0.2	-	0.2	2.3	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-2	葉	0.2	-	2.1	2.3	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-3	葉	0.01	-	0.01	1/00	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-4	葉	0.2	-	0.1	1/00	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
K26	40-5	葉	0.01	-	0.3	1.0	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-6	葉	0.4	-	0.4	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-7	葉	0.01	-	0.1	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成
	40-8	葉	0.01	-	0.4	0.01	赤褐色 内・赤褐色	船積・船積へ 200	良好	121217 西行	内務省委託・二熟成積成

国土 番号	開発 年度	区域 番号	区域 名称	位置			用途	色調	樹木	植栽	規制・調整事項	備考
				北緯	東経	距離						
3601	37-21	第1	第1	-	-	14.40	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	37-22	第2	第2	-	-	11.10	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	外周部を除いて、内面緑化に準じている。外周部の緑化も、内面緑化に準じている。
	37-23	第3	第3	-	-	7.7	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	外周部を除いて、内面緑化に準じている。
3602	37-24	第4	第4	-	-	18.1	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3611	47-25	第1	第1	-	-	18.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3612	47-26	土庫等	第2	-	-	13.40	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3613	47-27	土庫等	第3	-	-	13.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3614	47-28	第4	第4	-	-	3.6	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3615	47-29	第5	第5	-	-	17.4	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3616	47-30	第6	第6	-	-	4.1	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3617	47-31	第7	第7	8.9	-	15.10	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3618	49-1	土庫等	第1	-	-	14.10	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3619	49-2	土庫等	第2	-	-	13.40	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3620	49-3	土庫等	第3	-	-	13.40	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3621	49-4	土庫等	第4	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3622	49-5	土庫等	第5	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3623	49-6	第6	第6	13.6	13.6	16.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	49-7	第7	第7	-	-	14.1	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	49-8	第8	第8	-	-	13.6	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3624	49-9	土庫等	第9	-	-	13.40	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	49-10	土庫等	第10	-	-	9.6	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	49-11	土庫等	第11	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3625	49-12	第12	第12	-	-	9.6	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3626	49-13	第13	第13	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3627	49-14	第14	第14	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3628	49-15	第15	第15	-	-	14.1	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3629	49-16	第16	第16	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3630	49-17	第17	第17	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3631	49-18	第18	第18	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3632	49-19	第19	第19	-	-	17.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3633	49-20	第20	第20	-	-	4.4	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。

＜D＞区画十番＞

国土 番号	開発 年度	区域 番号	区域 名称	位置			用途	色調	樹木	植栽	規制・調整事項	備考
				北緯	東経	距離						
3634	52-1	土庫等	第1	17.10	18.40	1.15	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-2	土庫等	第2	17.10	18.40	2.4	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-3	土庫等	第3	17.10	-	14.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3635	52-4	土庫等	第4	17.10	17.40	1.9	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3636	52-5	土庫等	第5	18.40	6.8	1.4	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-6	土庫等	第6	18.40	19.9	2.4	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-7	土庫等	第7	17.10	8.1	2.7	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3637	52-8	土庫等	第8	18.40	18.40	1.1	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3638	52-9	土庫等	第9	17.10	17.40	1.1	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3639	52-10	土庫等	第10	18.40	18.40	2.9	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-11	土庫等	第11	-	-	12.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
	52-12	土庫等	第12	18.40	-	1.9	緑1	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3640	52-13	土庫等	第13	-	-	13.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3641	52-14	土庫等	第14	18.40	-	13.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。
3642	52-15	土庫等	第15	-	-	13.10	小若	外:緑色 内:緑色	緑樹(緑1)植栽	良好	外:緑1 内:緑1	内面緑化に準じている。

出社 所属 組織	課長 番号	部署	出身	教育	職業	職名	所属	成績・評価項目	備考	
3000	32-18	土曜部 土曜	1989.10	08.23	1.4	専ら 調子	外・緑色 内・緑色	調子悪 劣	中 干員	
	32-17	専ら 専ら	-	03.01	02.29	専ら 調子	特・オレンジ色 特・深 藍色	特 調	良 調	
	32-16	専ら 専ら	16.9	高998.6	7.8	調子 良	特・深藍色 特・深藍 色	良 調	良	
	32-15	土曜部 土曜	134.3	100.3	3.0	調子 良	外・緑色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-10	土曜部 土曜	55.5	53.3	2.0	調子 良	外・深藍色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-21	土曜部 土曜	133.0	103.0	2.7	調子 良	外・深藍色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-22	土曜部 土曜	106.2	101.0	2.9	調子 良	外・深藍色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-23	土曜部 土曜	106.2	114.0	2.4	調子 良	外・深藍色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-24	土曜部 土曜	115.2	103.3	2.2	調子 良	外・深藍色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子15-26 調子	良 調	良
	32-25	土曜部 土曜	133.0	104.5	2.8	調子 良	外・緑色へ内・深藍色 内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良
	32-26	土曜部 土曜	9.0	6.9	1.8	調子 良	外・深藍色 内・内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良
	32-27	土曜部 土曜	105.0	98.0	1.4	調子 良	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良
32-28	土曜部 土曜	96.2	77.3	1.9	調子 良	外・深藍色 内・緑 色	調子18a 調子	良 調	良	
32-29	土曜部 土曜	86.8	77.0	1.1	調子 良	外・内・深藍色へ内・深 藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良	
32-30	土曜部 土曜	8.9	7.4	0.9	調子 良	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良	
32-31	土曜部 土曜	80.4	80.0	1.0	調子 良	外・緑色 内・緑 色	調子17-26 調子	良 調	良	
32-32	土曜部 土曜	89.3	80.3	1.1	調子 良	外・深藍色 内・内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良	
32-33	土曜部 土曜	86.2	80.0	0.7	調子 良	外・内・深藍色へ内・深 藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良	
32-34	土曜部 土曜	77.6	64.0	6.7	調子 良	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	調子18a 調子	良 調	良	
32-35	特色上 履	17.0	-	14.0	引調 調子	外・深藍色へ緑色 内・深 藍色へ内・深藍色	調子 調子	平 調	干 員	
32-36	高専 履	151.0	-	151.0	引調 調子	外・深藍色へ緑色 内・深 藍色へ内・深藍色	調子 調子	良 調	良	
32-37	高専 履	-	高専 履	17.1	履調 調子	外・深藍色へ深藍色 内・深 藍色へ内・深藍色	履調 調子	中 干員	良	
32-38	石原 履	-	03.20	中干 員	特・深藍色 特・深藍 色	履調	良 調	良		
32-39	石原 履	36.8	5.9	6.2	調子 良	特・深藍色 特・深藍 色	中干 員	良 調	良	
34-1	履	020.0	-	06.0	引調 調子	外・深藍色へ内・深 藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良	
34-2	履	-	03.80	中干 員	外・緑色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良		
34-3	履	-	03.13	中干 員	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良		
34-4	履	08.13	05.23	履調 調子	外・深藍色へ深藍色 内・深 藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良		
34-5	履	02.80	-	09.0	履調 調子	外・深藍色へ深藍色 内・深 藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良	
34-6	履	-	100.80	中干 員	外・深藍色へ深藍色 内・深 藍色へ内・深藍色	調子17-26 調子	良 調	良		
34-7	履	-	8.8	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良		
34-8	履	188.6	-	98.0	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-9	履	131.40	-	100.20	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-10	履	-	08.20	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良		
34-11	履	133.80	-	105.0	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-12	履	-	05.40	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良		
34-13	土曜部 履	139.60	-	147.3	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-14	土曜部 履	157.3	5.6	4.1	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-15	高専 履	166.80	-	137.3	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-16	高専 履	152.30	-	5.6	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-17	土曜部 履	139.60	-	137.3	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
34-18	高専 履	133.1	-	14.3	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-1	高専 履	-	高専 履	12.1	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-2	履調 履	-	高94.3	12.25	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-3	専ら履 履	-	高978.9	12.13	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-4	履調 履	235.0	-	15.0	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-5	履調 履	-	154.6	12.45	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-6	土曜部 履	-	05.90	中干 員	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-7	土曜部 履	05.23	-	06.30	履調 調子	履調 調子	調子17-26 調子	良 調	良	
32-8	土曜部 履	08.23	08.23	1.1	履調 調子	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	履調 調子	中 干員	良	
32-9	土曜部 履	-	03.40	中干 員	外・深藍色へ内・内 深藍色へ内・深藍色	履調 調子	履調 調子	良 調	良	
32-10	履調 履	-	高998.2	11.7	履調 調子	履調 調子	履調 調子	良 調	良	

出土遺物 種別 品名	出土 層位	図取 番号	図種 番号	位置		形状	色調	粘土	成分	観察	備考	
				口径	底径							
S005	32-11	土師器 鉢	-	-	底, 口	小片	赤・白・黄褐色 内・白・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・内・黄	内面に口付着。	
	32-12	土師器 鉢	-	高約4.5	(2, 4)	底	赤・黄褐色 胎・黄白色	粘結	良好	赤・黄褐色 胎・黄白色 内・黄褐色	高付部分に付着。	
	32-13	土師器 鉢	-	-	(1, 4)	小片	赤・黄褐色 胎・黄白色	粘結	良好	12-1017 赤・白・内・黄	内面側のたが割線不連続。	
	32-14	土師器 鉢	-	-	(3, 3)	小片	赤・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・内・黄	3面の取縁あり。	
	32-15	土師器 鉢	-	-	(11, 4)	-	-	-	-	-	底下部に土着土。	
S006	32-16	土師器 鉢	-	高約6.9	(2, 4)	底	赤・内・黄褐色 胎・黄褐色	粘結	良好	赤・白・黄褐色 胎・内・黄褐色 胎・黄褐色	底下部より出土。表面に口付着。	
	32-17	土師器 鉢	-	(14, 3)	(2, 2)	底, 口	赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	赤・白・内・黄・黄褐色	内面側のたが割線不連続。	
	32-18	土師器 鉢	-	-	(7, 1)	約1/4	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色	底下部より出土。	
	32-1	甕	16.5	-	(13, 1)	1/3	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面側に土着。内面側に口付着。	
S007	32-2	甕	12.9	-	10.8	底, 口	赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・内・黄褐色 胎・黄褐色	内面に黄褐色。内面側により不連続の取縁不連続。	
	32-3	甕	-	-	(13, 4)	口	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	赤・白・内・黄・胎・黄褐色	内面側に底縁に口付着黄褐色あり。	
	32-4	甕	13.1	1.6	3.7	4.95	底, 口	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面に黄褐色。胎縁部は口縁より不連続。
S008	32-5	甕	-	-	(10, 3)	底	赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	赤・白・内・黄・胎・黄褐色	内面に口付着。内面側に胎縁にのみ取縁不連続。	
S009	32-6	甕	(14, 3)	-	10.9	底, 口	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面側に胎縁に口付着。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。	
S010	32-7	甕	-	-	(30, 3)	底・口	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面に胎縁に口付着。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。	
	32-8	甕	20.15	3.5	26.8	口	約1/3の欠片	赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面に胎縁に口付着。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。
	32-9	甕	25.4	-	(31, 4)	底・口	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面に胎縁に口付着。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。	
S011	32-10	灰土器 土師器 鉢	(18, 10)	-	(4, 4)	口・胎縁部	赤・黄褐色 胎・黄褐色 内・黄褐色	粘結	良好	12-1017 赤・白・黄褐色 胎・黄褐色 胎・黄褐色	内面側に口付着。胎縁に土着黄褐色あり。胎縁に土着黄褐色あり。	

(出土石製品観察表)

出土遺物 種別 品名	出土 層位	図取 番号	図種 番号	石材	質量 (単位値) cm			法線 s	備考
					1 (長さ)	W (幅)	h (厚さ)		
A-S006	12-1	8	砥石	石英凝岩	8.4	6.5	5.0	484.5	全面使用が認められる。
A-S002	12-2	8	砥石	頁岩 (やが砂泥質)	(89.5)	(2.6)	(1.25)	50.5	砥面に比着物あり。
A-S001	12-3	8	石鏡	滑石	残存高: 6.2cm			97.6	
A-S001	12-4	8	砥石	流紋岩	(5.45)	(3.15)	(1.8)	37.4	
A-S001	12-5	8	砥石	砂岩	(4.4)	(2.35)	(1.85)	35.0	ほぼ全面砥面として使用。
B-SF01	21-1	8	石鏡	黒曜石	7.7	3.8	3.35	137.1	自然面残存。SF01中位より出土。
B-SF01	21-2	8	石鏡	安山岩	2.85	1.0	0.3	1.1	
B-SF01	21-3	8	砥石	砂岩	(7.35)	(3.7)	(2.8)	100.9	ほぼ全面砥面として使用かつ下半が欠損している。
B-SF03	25-1	8	砥石	砂岩	(7.4)	(7.2)	(1.7)	56.0	
B-SF04	25-2	8	剥片	黒曜石	1.1	3.1	0.5	1.2	自然面残存。
B-SF04	25-3	8	剥片	黒曜石	1.5	2.3	0.45	1.5	自然面残存。
B-SF04	25-4	8	剥片	黒曜石	2.7	2.5	0.65	4.3	自然面残存。
B-S001	32-3	8	砥石	砂岩	(8.1)	(3.95)	(3.5)	125.1	全面を砥面として使用か?
B-P055	32-5	8	石鏡	花崗岩	(3.85)	(4.4)	(4.45)	30.0	上部打ち欠き。下部欠損している。
C-SC10	42-1	8	投擲	安山岩	3.65	3.6	2.75	43.2	
C-SC11	42-3	8	磨製石衝	頁岩	(18.15)	(5.8)	1.6	150.5	研削後に転用。再研削。中央部分の研削が粗い。
C-SC20	42-4	8	砥石	頁岩	9.9	5.95	2.1	128.1	全面に比着物が認められる。塊状を呈する。
C-S007	47-32	8	石磨丁	安山岩	(2.4)	(2.9)	(1.4)	4.8	摩滅のため詳細不明。下部に使用痕残存?
C-P078	50-1	8	砥石	頁岩	(6.3)	(4.85)	(1.25)	51.3	ほぼ全面を砥面として使用か?
D-SE02	55-1	8	砥石	流紋岩	(12.6)	(5.9)	5.0	444.5	全面を砥面として使用しているが、積極的な使用でではなく使用しているうちに面を形成したと考えられる。
D-SK02	55-2	8	石鏡	滑石	残存高: 3.3cm			160.4	口縁: 放射状の工具痕後に研削。内面: 研削。外面: 打位の工具痕。二次加工痕残存。
D-S001	58-1	8	石鏡 転用品	滑石	残存高: 4.6cm			135.2	内外面工具痕残存。内面下部に口付着。穿孔あり。

(出土金属品観察表)

出土遺構 区	遺構 番号	採回 箇所 番号	器種	残存	法量 (残存量)			備考	
					I (長さ)	W (幅)	cm t (厚さ) g (重量)		
A	SC02	13-1	鉄鏃	基部・光面 身部約1/3	(7.4)	(1.8)	-	14.2	基部断面は方形か?
A	SD02	13-6	鏃		10.0	2.3	1.0	98.7	
B	SD01	32-1	刀子		(2.8)	(1.1)	0.2	1.8	
B	SD01	32-2	不明鉄製品		6.95	2.6	(0.5)	21.1	
D	SD02	55-3	鏃		(4.9)	(3.3)	0.3	12.9	横断面の鏃が著しく、断面形状ははっきりとしない。
D	SD06	58-4	不明鉄製品		5.8	3.95	2.3	55.0	

(出土土製品観察表)

出土遺構 区	遺構 番号	採回 箇所 番号	器種	残存	法量 (残存)cm	重量g	色調	胎土	焼成	成形・調整技 法	備考
A	SC05	13-3	土物形 土製品	体部 約2/3	長:(4.6) 幅:(3.5) 高:(3.1)	27.5	にぶい橙 色	やや密。径2mm以 下の石英・長石・雲 母などを少し含 む。	良	77°+指頭圧痕	頸部、尻部、脚部は本 次痕。左前脚は残存する。極 端に脚が短い。異質な腹部 を呈する。径30°
A	SD02	13-4	管状 土埴	完形	長:4.95 幅:1.1 径:1.65	5.5	褐色	密。径1mm以下の 石英・石英・長石・ 雲母等僅かに含 む。	良		
A	SD02	13-5	紡車 土埴	ほぼ 完形	長軸:(4.55) 短軸:(3.2) 厚さ:(1.65)	37.6	にぶい黄 褐色	はば密。径2mm以 下の石英・石英・長 石・雲母等少し含 む。	良	77°+指頭圧 痕、布目痕	
B	SD01	32-4	管状 土埴	完形	長:(5.15) 幅:(1.1) 厚:(1.0)	4.8	黒褐色	密。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良		
C	SC11	42-2	ミニ チュア 土埴	破片	高:(2.35)	-	にぶい橙 色	密。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	379°・42°・押 3°・77°・42°材料	手捏ね
C	SK11	47-33	8 投擲	約2/3	長:(3.8) 幅:(2.3) 厚:(2.15)	12.3	にぶい橙 色	密。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	77°+指頭圧痕	黒炭あり
C	P994	50-2	8 投擲	約2/5	長:(3.4) 幅:(2.3) 厚:(2.2)	10.3	にぶい赤 褐色	密。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良	77°+指頭圧痕	黒炭あり
C	P108	50-3	土埴	破片	長:(3.25) 幅:(0.9) 厚:(0.85)	2.7	褐色	密。径1mm以下の 石英・長石・雲母等 僅かに含む。	良		
D	SK08	55-4	8 横造輪	1/2割	径:(7.2) 厚:(1.45)	25.0	背面:に ぶい褐色 ~褐色。 腹面部: 褐色~に ぶい褐色	やや粗い。径2mm 以下の石英・長石・ 雲母等をやや多く 含む。	良	背面:42°・押3度 77°・42°材料。腹 77°・腹面部:3 7°・42°・押3 7°+指頭痕後77°	切縁部の厚みは不均一。背 面中央付近に42°が認めら れる。腹面部片縁部に37 7°+42°が残る。
D	SD01	58-2	土埴	約1/4	高:(3.0)	3.8	淡黄褐色	精緻。1mm以下の 砂粒を僅かに含む	良	外面:丁寧な 77°・内面:74° 痕、丁寧な77 7°	外面に土線あり。
D	SD06	58-3	土埴	ほぼ完 形	長:(4.2) 幅:(0.95) 厚:(0.85)	2.7	明赤褐色	精緻。1mm以下の 砂粒を僅かに含む	良		表面の摩滅が著しい。



①小坂井屋敷遺跡5全景（真上から）



②A区全景（真上から）



③B区全景（真上から）



④C区全景（真上から）



⑤D区全景（真上から）

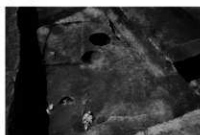


⑥調査区遠景（北から）
[1次調査地・遺跡南端をのぞむ]

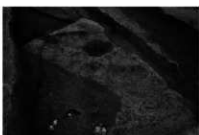


⑦調査区遠景（東から）
[遺跡南西端及び周辺遺跡をのぞむ]

図版 2



①A区SC01貼床面(東から)



②A区SC01完掘(東から)



③A区SC02貼床面(東から)



④A区SC05完掘(北から)



⑤A区SC07貼床面(東から)



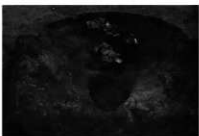
⑥ST01出土状況(西から)



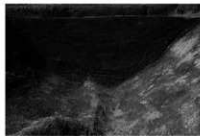
⑦B区SF01出土状況(西から)



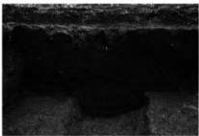
⑧B区SF02出土状況(西から)



⑨B区SF05出土状況(北から)



⑩B区SD01b区ベルト土層(東から)



⑪B区SD02西壁土層(東から)



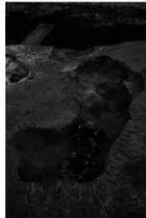
⑫C区SC03貼床面(南から)



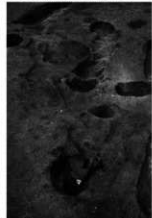
⑬A区SC02完掘
(南西から)



⑭A区SC06完掘
(西から)



⑮B区SF03遺物出土状況
(南から)



⑯B区SF04・SK08完掘
(東から)



①C区SC03完掘(南から)

②C区SC05貼床面(北から)

③C区SC05貼床面(北から)



④C区SC08完掘(南から)

⑤C区SC12土器出土状況(東から)

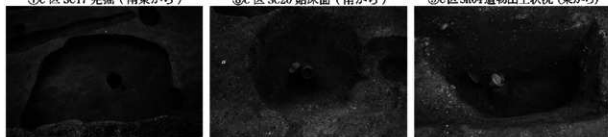
⑥C区SC12完掘(東から)



⑦C区SC17完掘(南東から)

⑧C区SC20貼床面(南から)

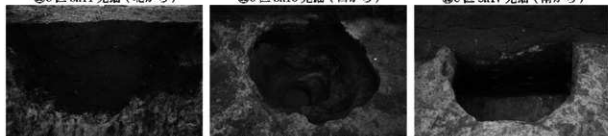
⑨C区SK04遺物出土状況(東から)



⑩C区SK11完掘(北から)

⑪C区SK16完掘(西から)

⑫C区SK17完掘(南から)



⑬D区SD01土層(東から)

⑭D区SE01完掘(南から)

⑮D区SE02完掘(東から)

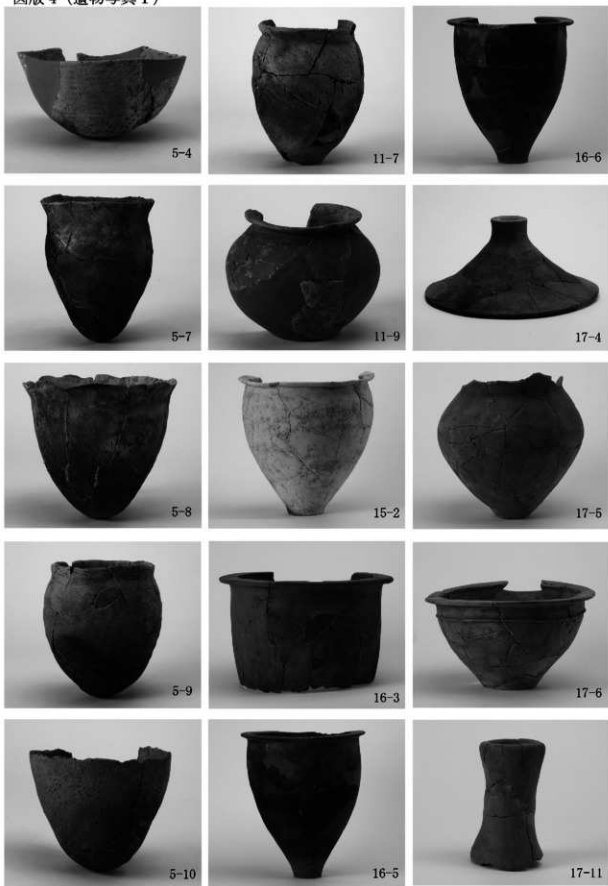


⑯D区SK02完掘(北東から)

⑰D区SD01土層(南から)

⑱D区SD02土層(南から)

図版 4 (遺物写真 1)



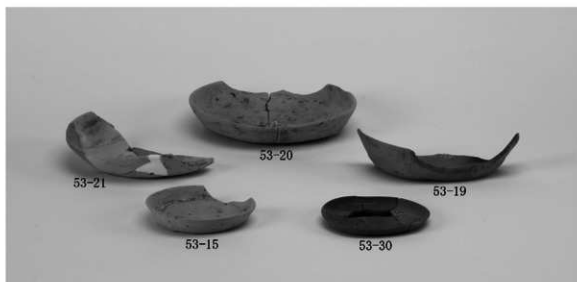
図版5 (遺物写真2)



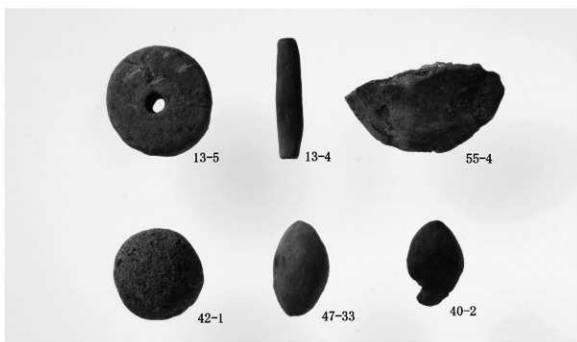
図版6 (遺物写真3)



図版7 (遺物写真4)



图版 8 (遺物写真 5)



報告書抄録

ふりがな	こいたいやしきいせき 5							
書名	小板井原敷遺跡 5							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小都市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 278 集							
編著者名	姫野久恵							
編集機関	小都市教育委員会							
所在地	〒 838-0198 福岡県小都市小部 255-1 ☎ 0942-72-2111							
発行年月日	2014 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こいたいやしき 小板井原敷 いせき 遺跡 5	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小都市 こいたいやしき 小板井	40216		33° 23' 28"	130° 33' 52"	2013.1.12 ～ 2013.5.18	880㎡	集合住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
小板井原敷 遺跡 5	集落	弥生時代 平安・鎌倉・室町時代 江戸時代		糞箱 1 基 祭祀土坑 5 基 住居跡 29 軒 土坑 41 基 井戸 5 基 周溝状遺構 1 条 溝 28 条		弥生土器 須恵器 土師器 陶磁器 石器 土製品 等		
要約	小板井原敷遺跡の第 5 次調査は、調査区を A 区、B 区、C 区、D 区に分けて調査を行った。A 区は、主に弥生中期中葉と後期終末の住居跡を検出した。B 区は、小児糞箱を 1 基、祭祀土坑を 5 基検出した。いずれも弥生中期前葉～中葉と比定される。C 区も A 区同様、同時期の住居跡を数多く検出した。D 区は、弥生時代の土坑や、中世の井戸、土坑を多く検出している。							

こいたいやしきいせき
小板井屋敷遺跡 5
小郡市文化財調査報告書
第278集
2014年3月31日

発行 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷有限公司
福岡県小郡市紙園 1 丁目 8-15